

口腔生命福祉学科

歯科放射線学 担当: 西山



<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~nisiyama/ohw/physics.pdf>

<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~nisiyama/ohw/physics-handout.pdf>

講義

- 放射線とは何か？
- エックス線とは何か？（定義、種類、性質）
- 撮影機器について（エックス線の発生）
- 撮影法について
- 検出器（IP・フィルム）と現像・デジタルについて
- 放射線防護について



実習

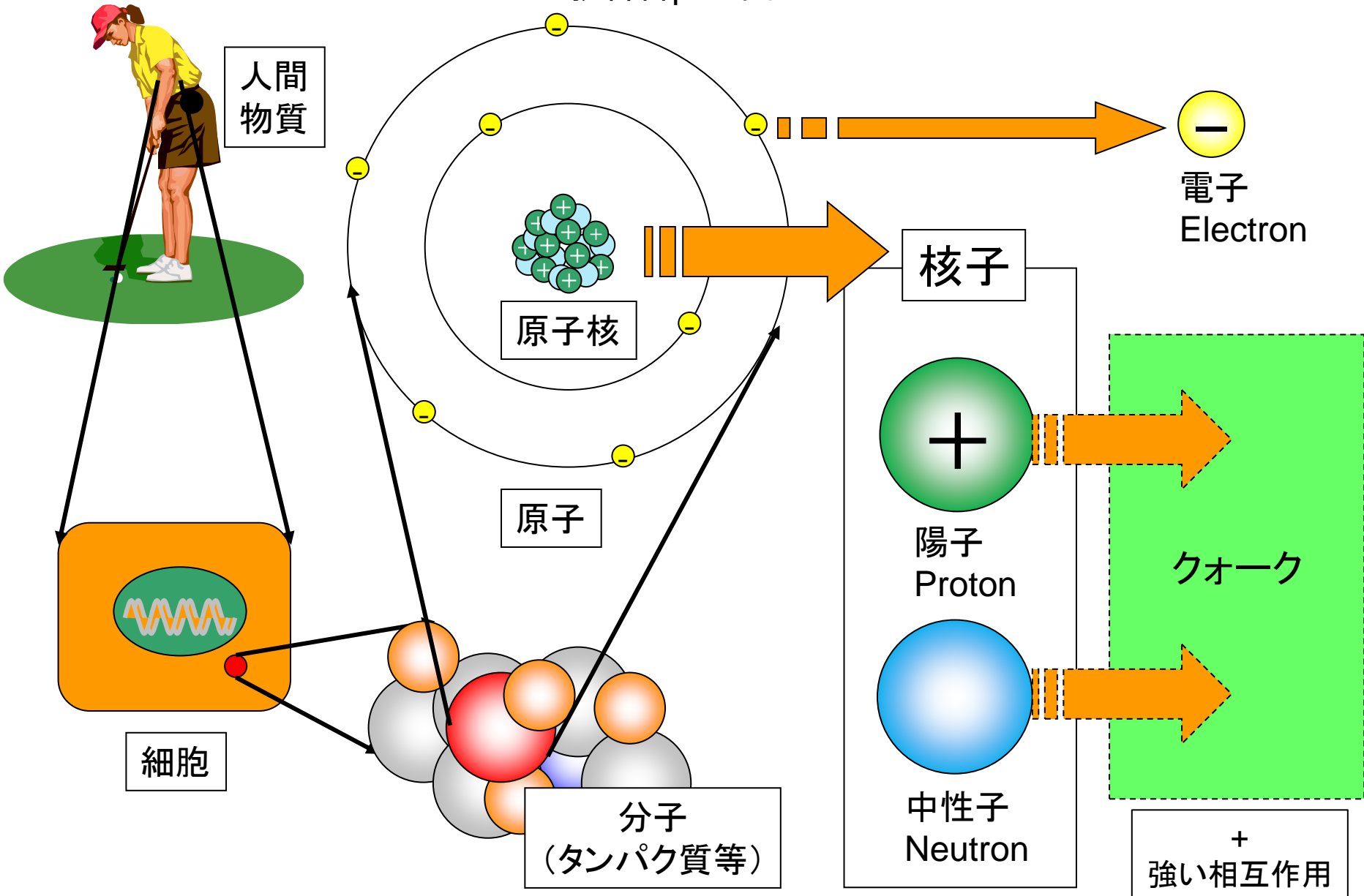
- 検出器（IP・フィルム）の扱い方について
- 撮影補助・模型実習
- 線量測定

2024年7月8日

担当日数が限られているため、教科書の全てを網羅することは不可能なので、各自、不足する部分は自習するようにしましょう。

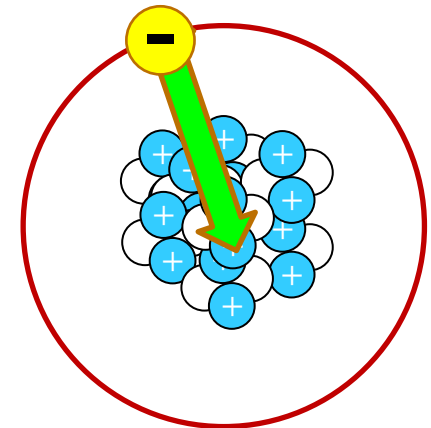
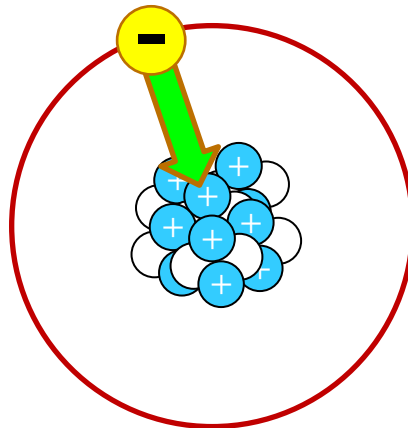
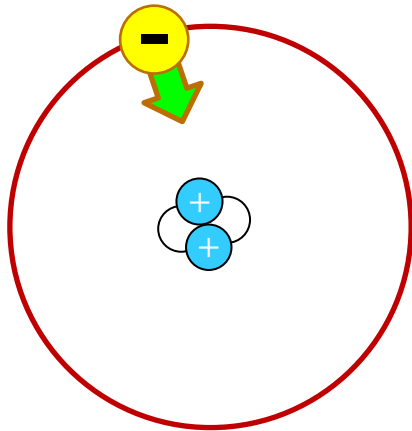
物質の構成

教科書p.13図1-10



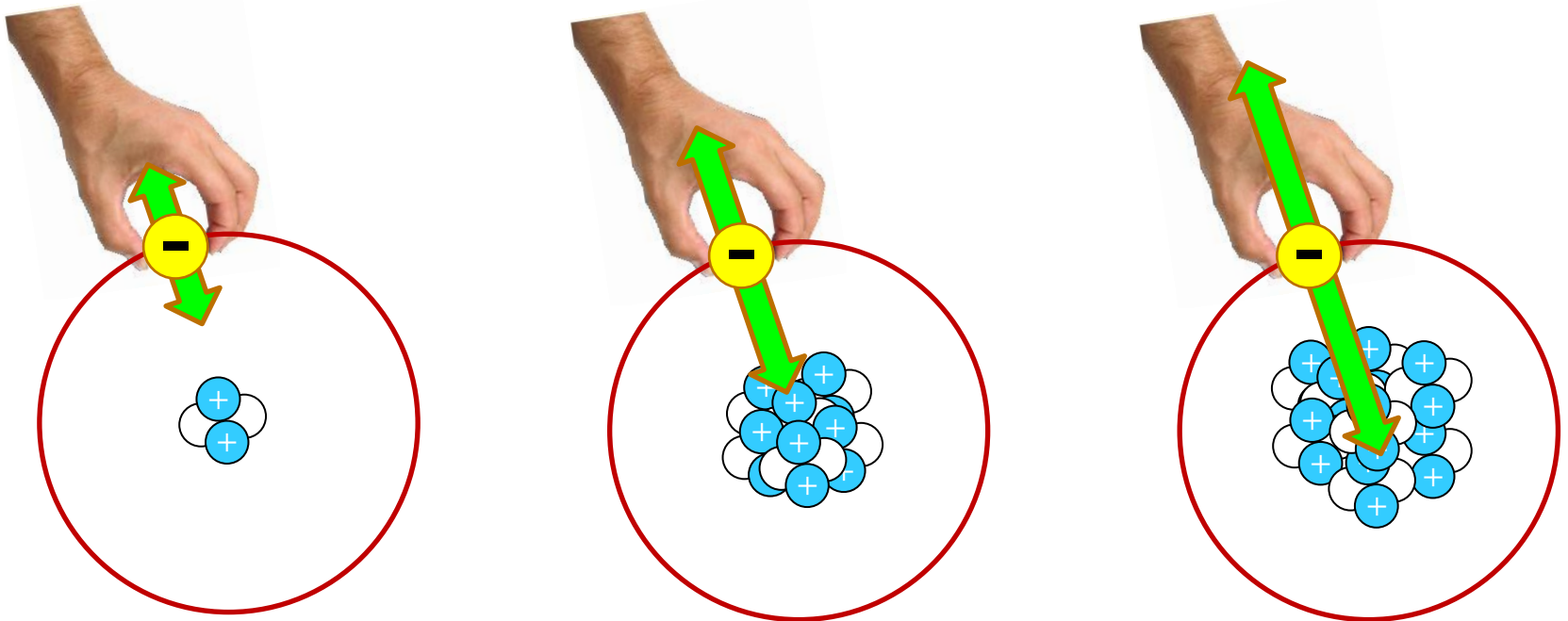
原子での電子の位置エネルギー

電氣的にプラスとマイナスで引き合っている。
原子核のプラスの数(陽子数=原子番号)が大きいと、強く引っ張られている。
ただし、電子の軌道の位置(安定した準位)が決まっているので、引っ張られて原子核に落ち込むことはない。



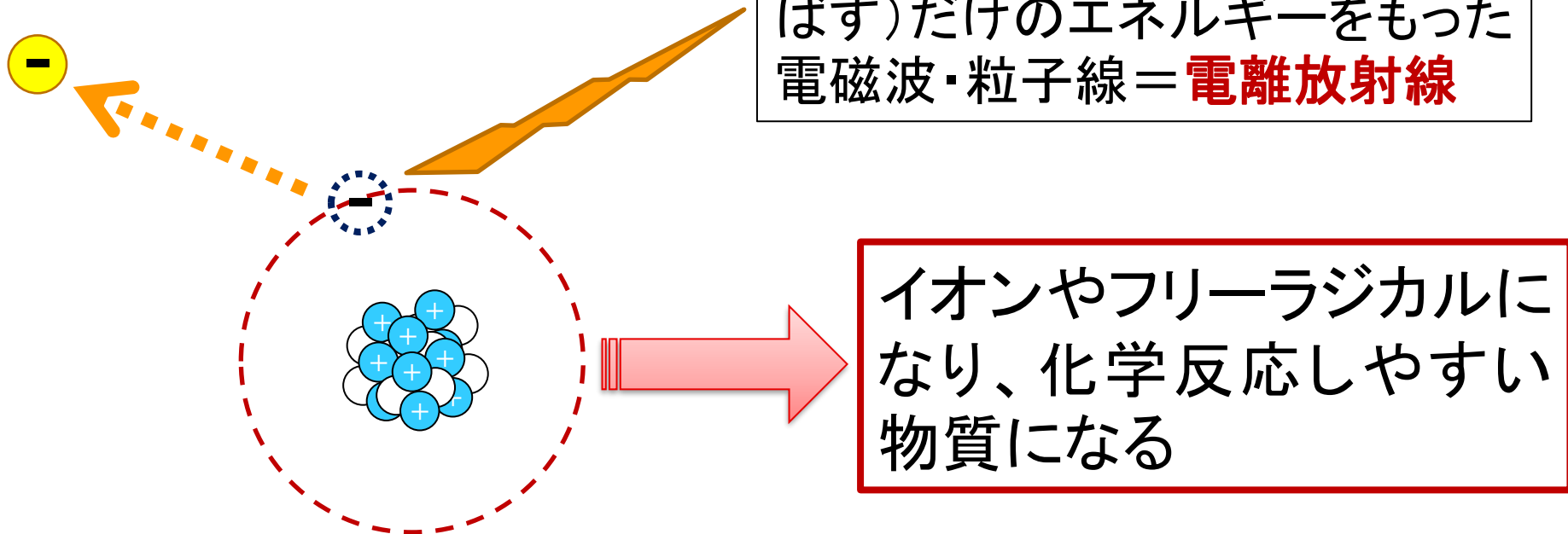
原子での電子の位置エネルギー

引き離す(励起・電離)には、引っ張られている以上の力・エネルギーが必要。



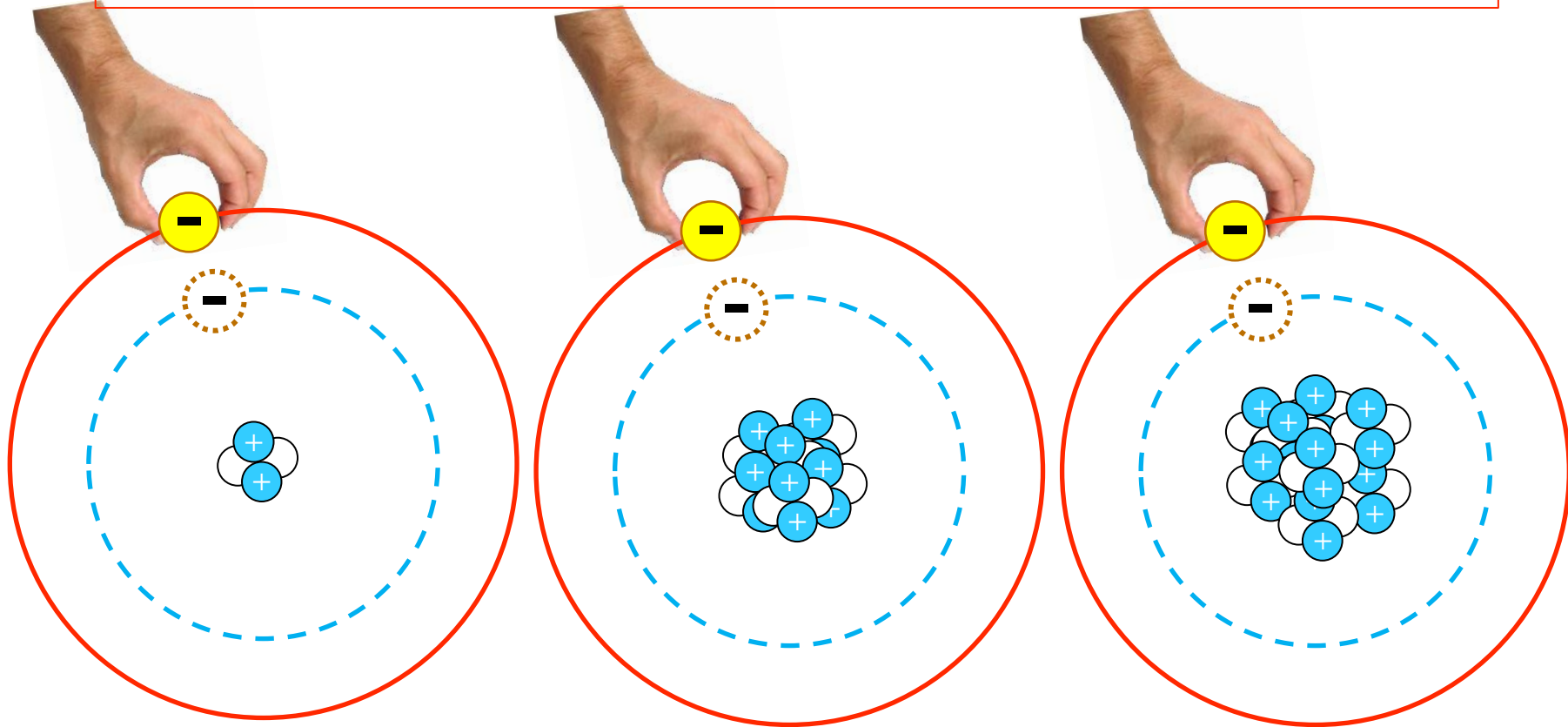
原子での電子の位置エネルギー

引き離す(励起・電離)には、引っ張られている以上の力・エネルギーが必要。



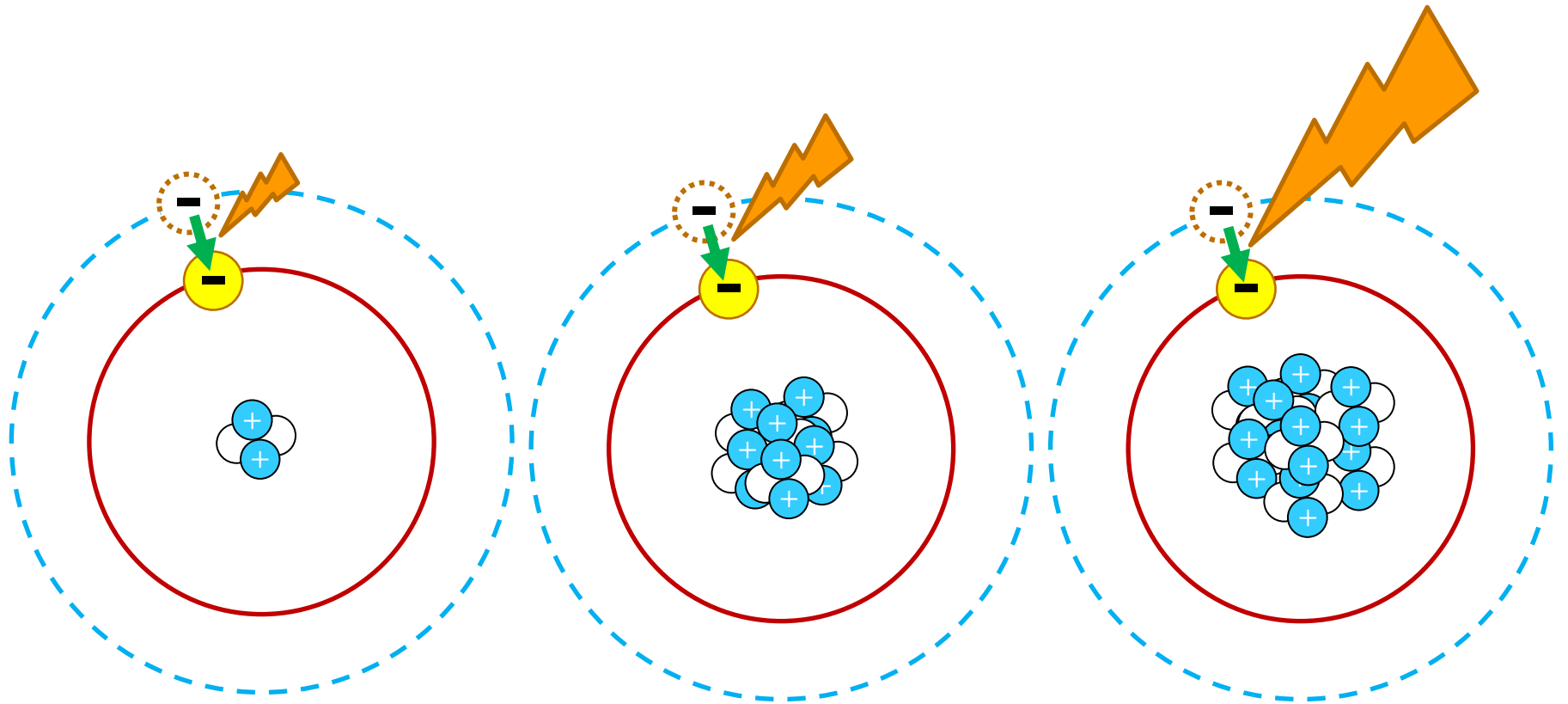
原子での電子の位置エネルギー

引き離し(励起)後、元の位置に戻るとき、引っ張っただけのエネルギーを出す



原子での電子の位置エネルギー

引き離し(励起)後、元の位置に戻るとき、引っ張っただけのエネルギー(電磁波)を出す



放射線とは(広義)

教科書p.4-5

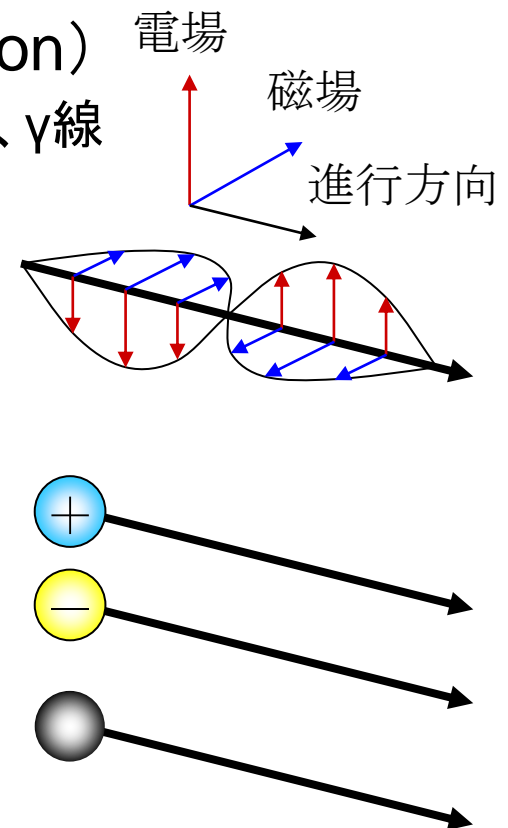
• 伝播する電磁波、あるいは飛翔する粒子線

- 電磁波 (electromagnetic wave)
(=電磁放射線、electromagnetic radiation)

- 電波、赤外線、可視光線、紫外線、エックス線、 γ 線

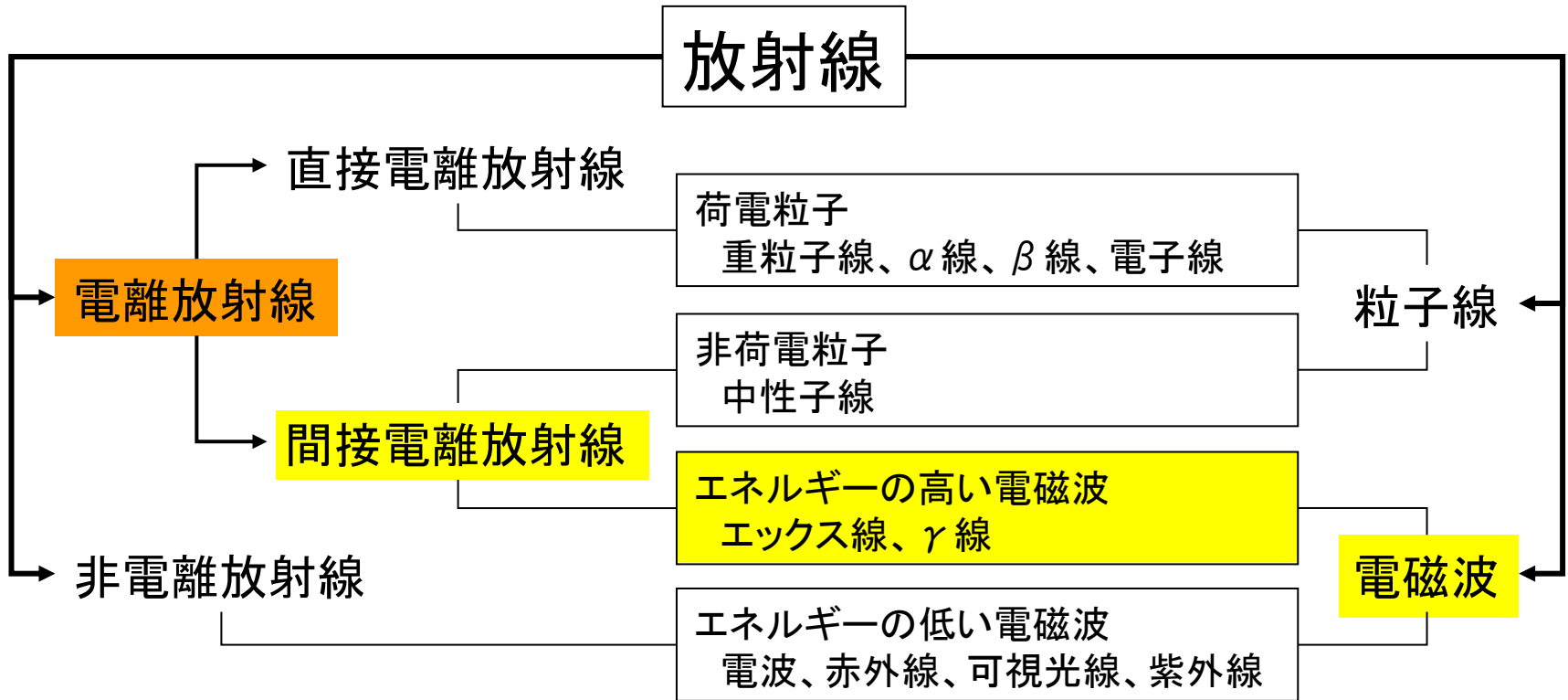
- 粒子線(particles)
(=粒子放射線、corpuscular radiation)

- 荷電粒子線
 - 電子線、 α 線、 β 線
- 非荷電粒子線
 - 中性子線、ニュートリノ

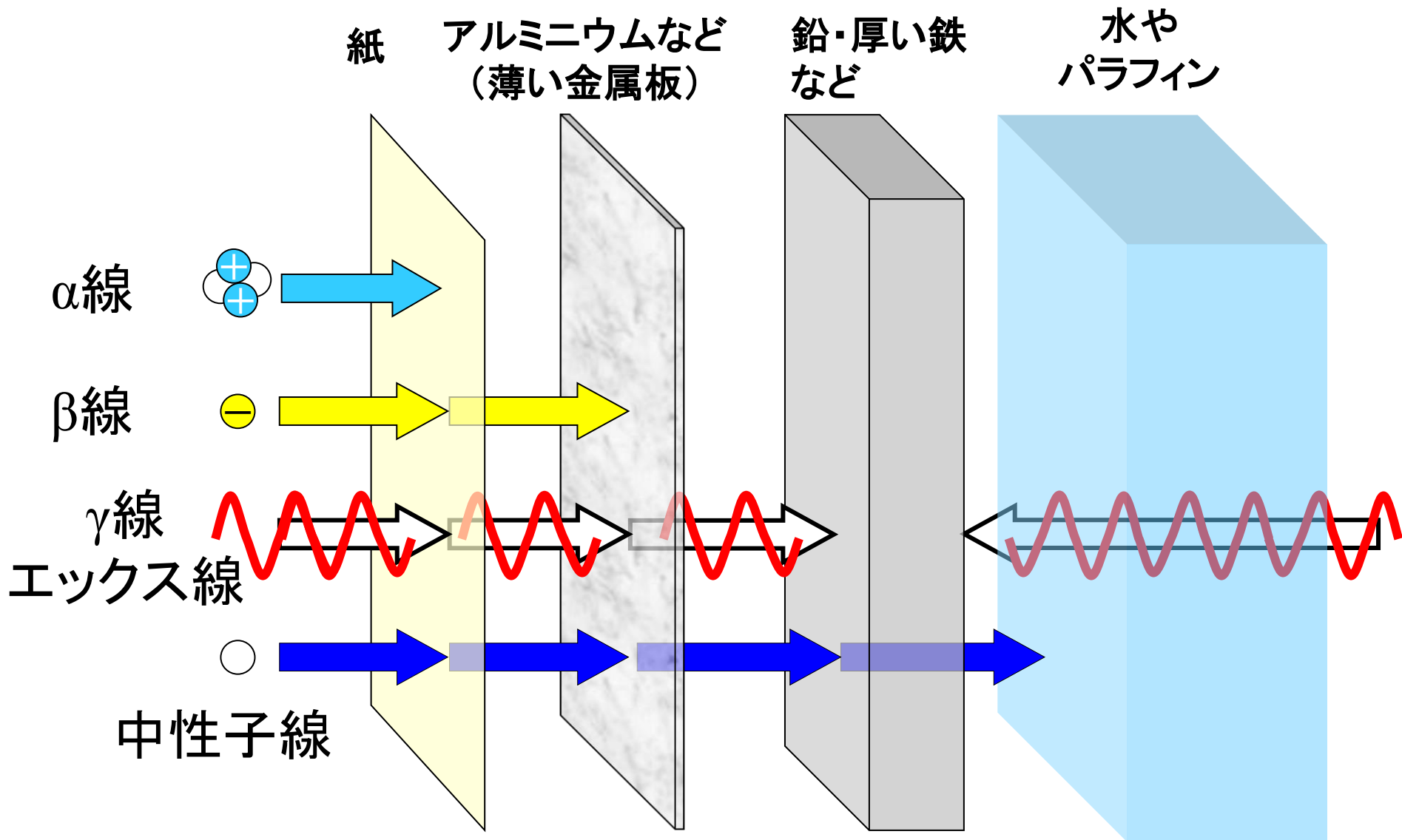


放射線の分類

教科書p.5

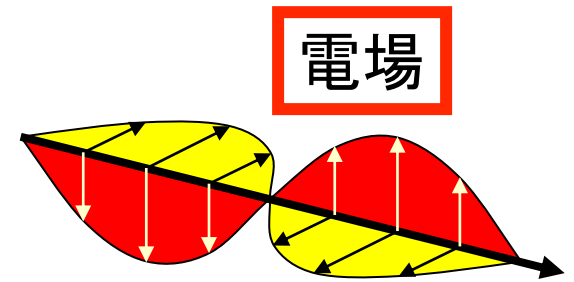


放射線の種類と遮蔽 (p.9)

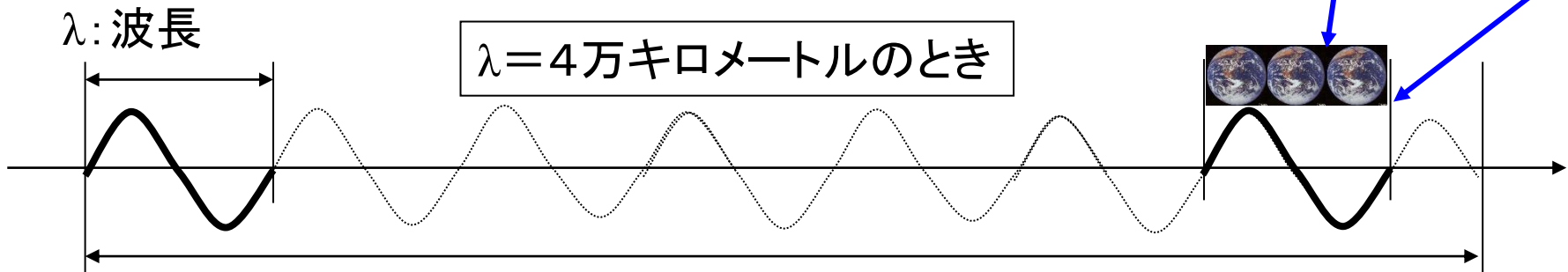


電磁波とは？

教科書p.5



- 電磁波は横波（音波は主として縦波；粗密波）
- 電場と磁場が電磁誘導しあいながら伝播していく。
- 真空中を光速で伝播する。 $(c \doteq 3.0 \times 10^8 \text{m/sec})$
- λ : 波長と、 ν : 周波数 (Hz) は反比例 $(c = \lambda \times \nu)$
- 量子力学的にはボーズ粒子 (光子)



$$30\text{万km} = c \times 1\text{秒}$$

$c \times 1\text{秒} \doteq 3.0 \times 10^8 \text{m}$ なので、例えば

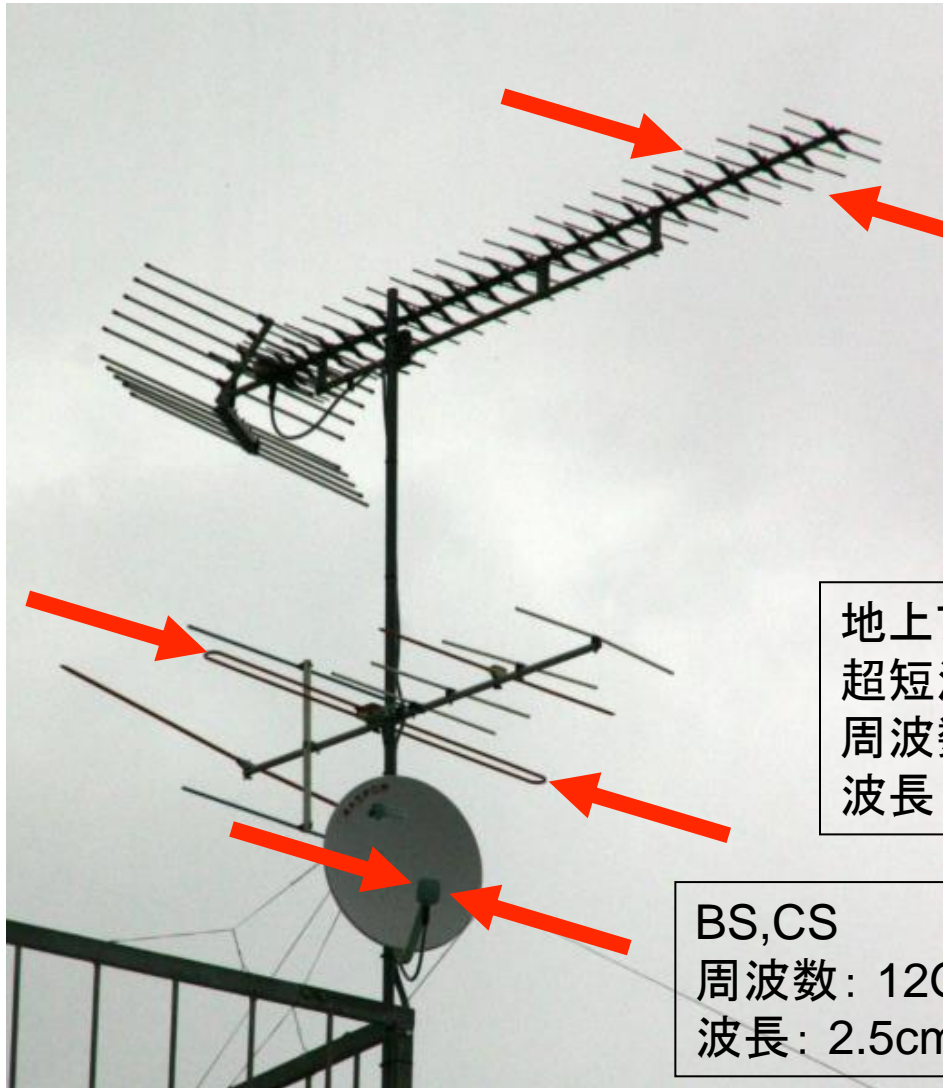
$\lambda = 4.0 \times 10^7 \text{m}$ (地球一周: 4万キロメートル) のとき

$\nu \doteq (3.0 \times 10^8) / (4.0 \times 10^7) = 7.5 \text{Hz}$ (7.5回/s)

光は1秒間に地球を「7周半」する速度を有している。

可視光線も電波も電磁波（放射線）

アンテナの棒の長さや間隔は
波長と同じか1/2ないし1/4の長さを利用



地上デジタルテレビ
極超短波(UHF)
周波数: 470MHz~770MHz
波長: 39cm~64cm

地上アナログテレビ
超短波(VHF)
周波数: 30M~300M
波長: 1.4m~3.3m

BS,CS
周波数: 12GHz
波長: 2.5cm



携帯電話
周波数: 800MHz~2GHz
波長: 15cm~37cm

名称	周波数		波長(長~短)		光子エネルギー(弱~強)		生体での大きさ ないし周波数	自然界での現象、利用目的など	
	Hz		指数表記(m)		eV				
電波	極超長波(ELF)	1 ~ 30	30万km ~ 1万km	$10^8 \sim 10^7$	$\sim 10^{-13}$		脳波	シューマン共振	
	SLF	30 ~ 300	1万km ~ 1000km	$10^7 \sim 10^6$	$10^{-13} \sim 10^{-12}$	1peV		50~60Hz:商用周波数	
	ULF	300 ~ 3k	1000km ~ 100km	$10^6 \sim 10^5$	$10^{-12} \sim 10^{-11}$			※以下の電波の波長はアンテナの大きさとほぼ同じ~4倍以内。	
	超長波(VLF)	3k ~ 30k	100km ~ 10km	$10^5 \sim 10^4$	$10^{-11} \sim 10^{-10}$			標準電波、対潜水艦通信(水中での減衰が少ない)	
	長波(LF)	30k ~ 300k	10km ~ 1km	$10^4 \sim 10^3$	$10^{-10} \sim 10^{-9}$	1neV		電波時計、航空・海上の無線標識局	
	中波(MF)	300k ~ 3M	1km ~ 100m	$10^3 \sim 10^2$	$10^{-9} \sim 10^{-8}$			中波ラジオ(アンテナはコイルを用いるので小さい)	
	短波(HF)	3M ~ 30M	100m ~ 10m	$10^2 \sim 10$	$10^{-8} \sim 10^{-7}$			短波ラジオ、アマチュア無線(大きなアンテナ)、 トランシーバー	
	超短波(VHF)	30M ~ 300M	10m ~ 1m	$10 \sim 1$	$10^{-7} \sim 10^{-6}$	1μeV	体長(1~2m)	FMラジオ、地上アナログテレビ、MRIのRFパルス	
マイクロ波	極超短波(UHF)	300M ~ 3G	1m ~ 10cm	$1 \sim 10^{-1}$	$10^{-6} \sim 10^{-5}$		頭部、大きな臓器(数10cm)	携帯電話、PHS、UHFテレビ、地上デジタルテレビ GPS、電子レンジ、無線LAN	
	センチ波(SHF)	3G ~ 30G	10cm ~ 1cm	$10^{-1} \sim 10^{-2}$	$10^{-5} \sim 10^{-4}$		組織、小さな臓器	衛星テレビ(BS,CS)、無線LAN	
	ミリ波(EHF)	30G ~ 300G	1cm ~ 1mm	$10^{-2} \sim 10^{-3}$	$10^{-4} \sim 10^{-3}$	1meV		レーダー、衛星通信	
	サブミリ波	300G ~ 3T	1mm ~ 100μm	$10^{-3} \sim 10^{-4}$	$10^{-3} \sim 10^{-2}$		組織	電波天文台 光と電波の中間領域、日本の電波法では3THz以下が電波	
赤外線	遠赤外線	3T~3000T $3 \times 10^{12} \sim 3 \times 10^{15}$	100μm ~ 15μm	$10^{-4} \sim 10^{-5}$	$10^{-2} \sim 1eV$		細胞・毛細血管		
	中赤外線		15μm ~ 2.5μm	$10^{-5} \sim 10^{-6}$			赤血球・細胞	分子の回転、振動のエネルギー差程度	
	近赤外線		2.5μm ~ 0.77μm	$10^{-6} \sim 10^{-7}$					
可視光線	赤	10 ¹⁵ 程度	0.77μm ~ 0.64μm	10 ⁻⁷ m程度	1.6~3.2eV程度	細胞内小器官		分子の化学結合のエネルギー程度。 レチナールを含むロドプシン等の蛋白質の吸収スペクトル 蛋白質の大きさは一桁ほど小さい。 エネルギーとしては、乾電池1本から2本(1.5Vから3V)程度で 電子1個に運動エネルギーを与える程度に相当する。	
	橙		0.64μm ~ 0.59μm						
	黄		0.59μm ~ 0.55μm						
	緑		0.55μm ~ 0.49μm						
	青		0.49μm ~ 0.43μm						
紫	0.43μm ~ 0.38μm								
紫外線	近紫外線	10 ¹⁵ 程度	380nm ~ 200nm	10 ⁻⁷ m程度	3.2~4.4eV程度			DNAの吸収スペクトル(250nm付近)	
	遠紫外線 真空紫外線	$3 \times 10^{15} \sim 3 \times 10^{16}$	200nm ~ 10nm	$10^{-7} \sim 10^{-8}$	$10 \sim 10^2$	細胞膜、蛋白質		遠紫外線と軟X線とは移行的で、厳密には区別困難。	
X線	軟X線	$3 \times 10^{16} \sim 3 \times 10^{17}$	10nm ~ 1nm	$10^{-8} \sim 10^{-9}$	$10^2 \sim 10^3$	1keV	DNA,RNA		
		$3 \times 10^{17} \sim 3 \times 10^{18}$	1nm ~ 1Å	$10^{-9} \sim 10^{-10}$	$10^3 \sim 10^4$		原子		
		$3 \times 10^{18} \sim 3 \times 10^{19}$	1Å ~ 0.1Å	$10^{-10} \sim 10^{-11}$	$10^4 \sim 10^5$			診断用のX線	
	ガンマ線	0.1~0.01Å以下	$3 \times 10^{19} \sim 3 \times 10^{20}$	0.1Å ~ 1pm	$10^{-11} \sim 10^{-12}$	$10^5 \sim 10^6$	1MeV		電子対生成(>1.022MeV)、光核反応
		$3 \times 10^{20} \sim 3 \times 10^{21}$	1pm ~ 100fm	$10^{-12} \sim 10^{-13}$	$10^6 \sim 10^7$			光核反応(速中性子)	
		$3 \times 10^{21} \sim 3 \times 10^{22}$	100fm ~ 10fm	$10^{-13} \sim 10^{-14}$	$10^7 \sim 10^8$			光核反応(中間子発生)	
	$3 \times 10^{22} \sim 3 \times 10^{23}$	10fm ~ 1fm	$10^{-14} \sim 10^{-15}$	$10^8 \sim 10^9$	1GeV	原子核			

k: キロ、10³
M: メガ、10⁶
G: ギガ、10⁹

T: テラ、10¹²
P: ペタ、10¹⁵
E: エкса、10¹⁸

μ: マイクロ、10⁻⁶
n: ナノ、10⁻⁹

1Å=0.1nm=100pm
p: ピコ、10⁻¹²
f: フェムト、10⁻¹⁵

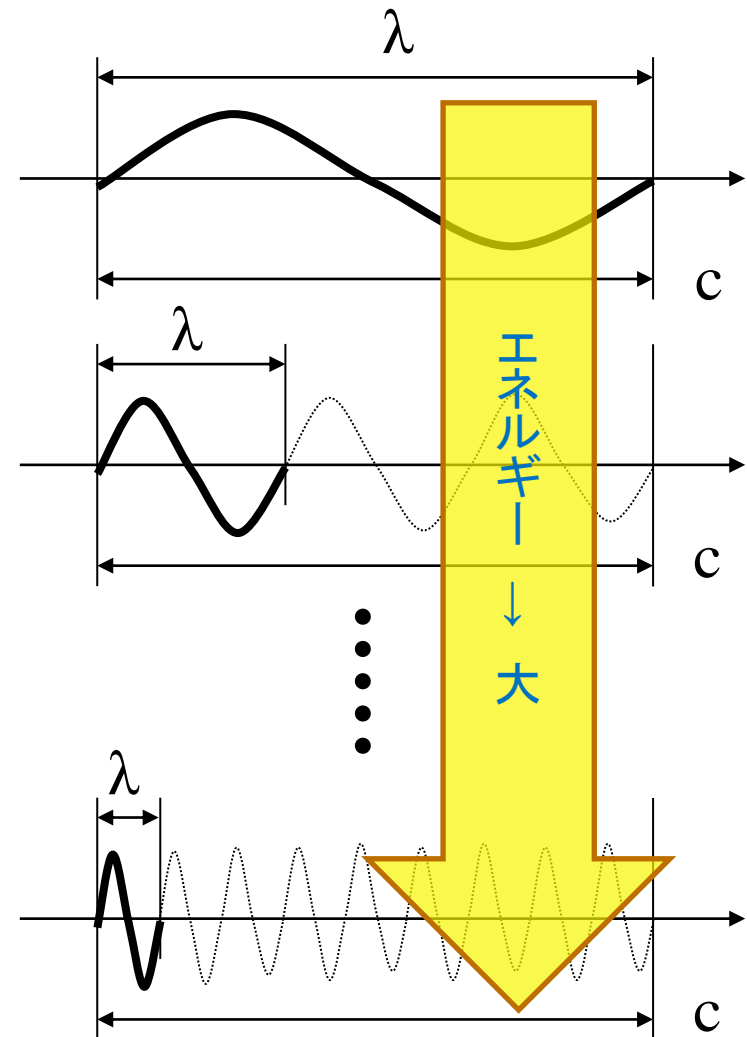
1eV=1.602 × 10⁻¹⁹[J]
h=6.626 × 10⁻³⁴[J・s]
c=299792458[m/s]

Å: オングストローム、10⁻¹⁰m



電磁波の量子(光子)としての エネルギーと周波数・波長との関係

- **波長が長い → 周波数が小さい**
→ **エネルギーが小さい**
- $E = h\nu = h \cdot c / \lambda$
 $= 1.99 \times 10^{-25} [\text{J} \cdot \text{m}] / \lambda$
 $= 1.24 [\text{eV} \cdot \mu\text{m}] / \lambda$
- プランク定数: h ($6.63 \times 10^{-34} \text{J} \cdot \text{sec}$)
- eV: エレクトロンボルト(電子ボルト)
 - 電子1個を1Vで加速したときに得られる運動エネルギー
 - $1 [\text{eV}] = 1.602 \times 10^{-19} [\text{C}] \times 1 [\text{V}]$
 $= 1.602 \times 10^{-19} [\text{J}]$

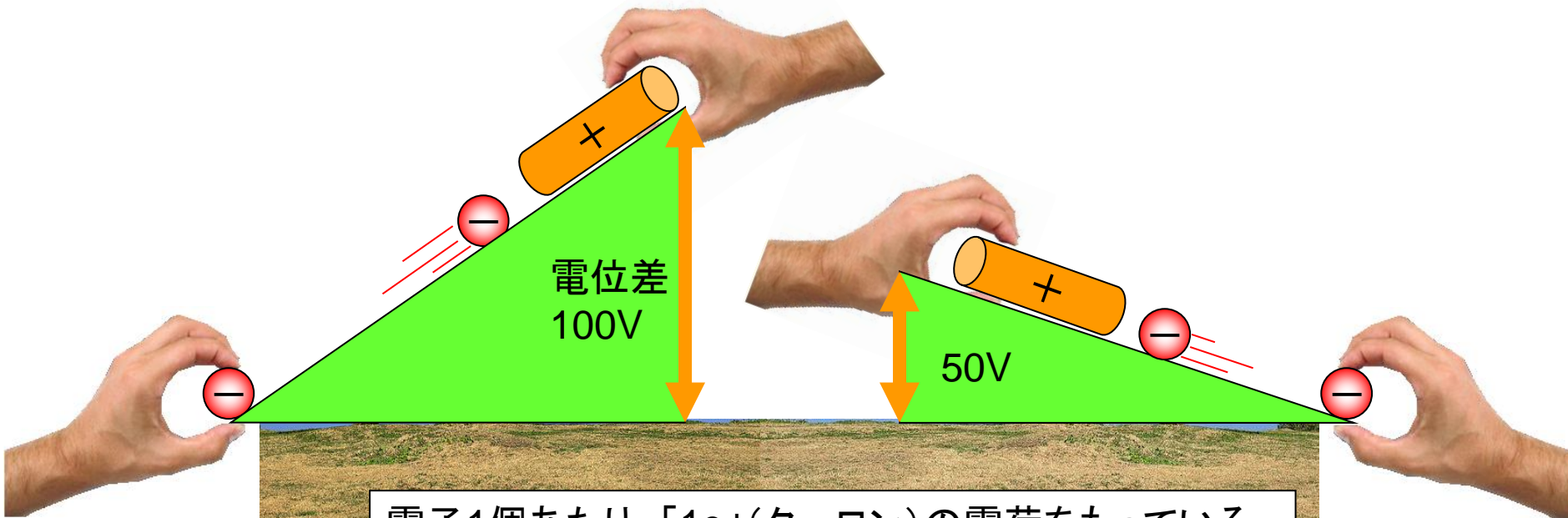


※乾電池1本で電子1個を加速したときの運動エネルギーが、 $1\mu\text{m}$ の電磁波(赤い色程度)と同じぐらいのエネルギー

エネルギーの単位としての「eV」について

電荷量(クーロン) × 電位差・電圧(ボルト)

「質量 × 高さ」に相当

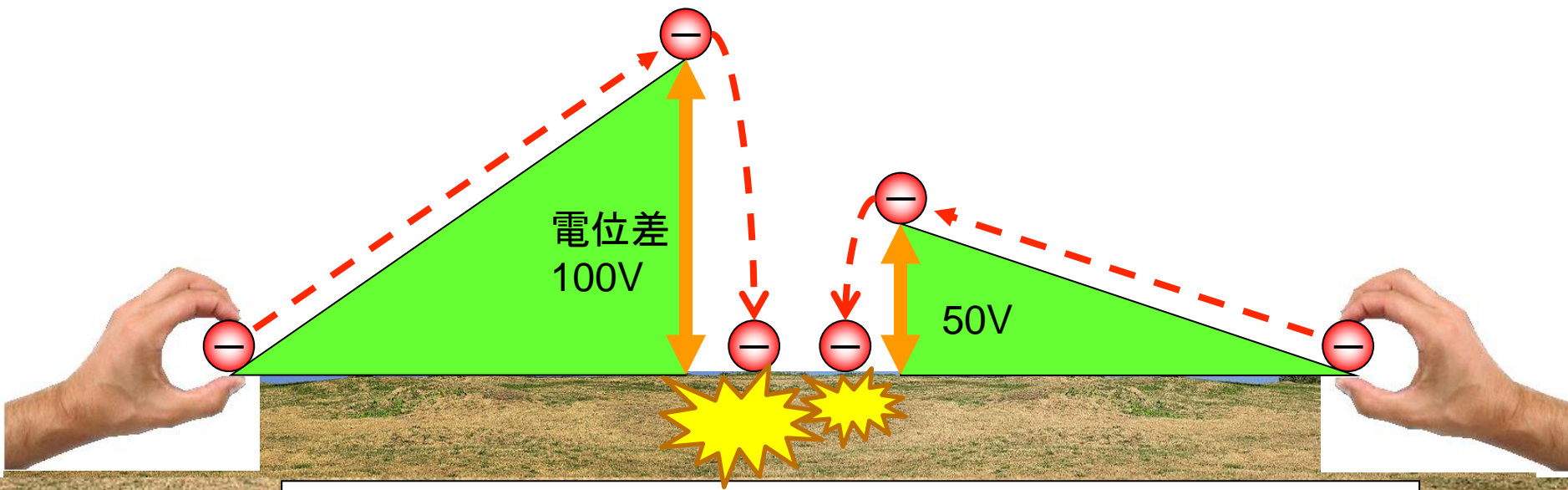


電子1個あたり、「1e」(クーロン)の電荷をもっている。
 $1e$ クーロン = 1.602×10^{-19} クーロン
+の電極に引っ張られると、エネルギーが増える。

エネルギーの単位としての「eV」について

電荷量(クーロン) × 電位差・電圧(ボルト)

「質量 × 高さ」に相当



増えたエネルギーは、電荷量(クーロン) × 電位差(ボルト)となる。
これは、「質量 × 高さ」といった位置エネルギーに似る。

エックス線（歴史的にはX線）

• 歴史

発見者

Wilhelm Conrad Röntgen

発見日

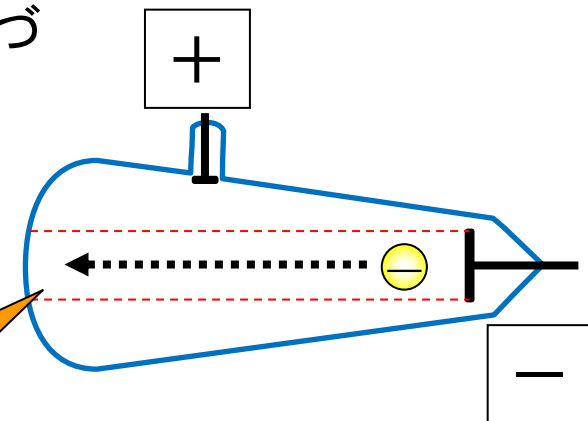
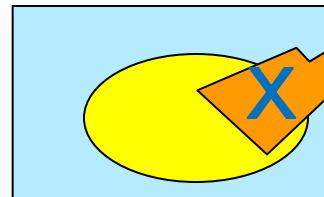
1895年11月8日（127年前）

発見した状態

陰極線研究中Crookes管（2極の真空管）から離れた位置にあるシアン化白金バリウム結晶を塗った紙スクリーンの蛍光に気づいたことによる。（黒い紙を通過した）

命名理由

「未知の」といういみでの「X」



Crookes管・概略図

物質の大きさと電磁波の波長(部分)

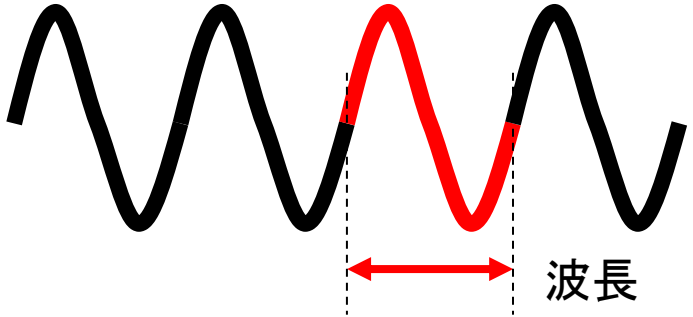
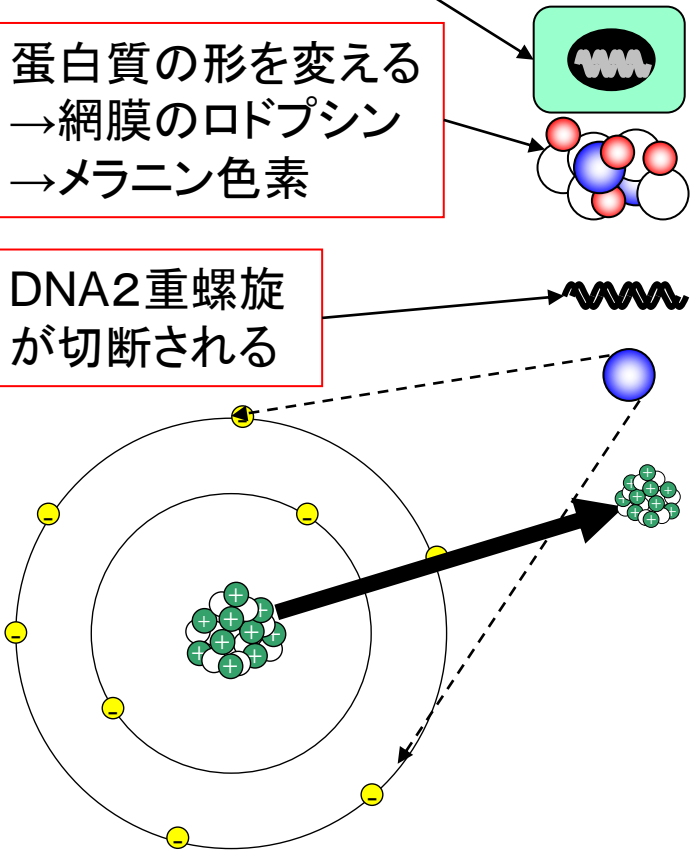
物質	大きさ・波長	名称
(新潟～上越)	100km	超長波
	～10m	短波
	10m	超短波
人体の大きさ程度	～1m	超短波
器官・組織	1m～100 μ m	マイクロ波
細胞・毛細血管	100 μ m～200nm	赤外線
細胞内小器官	2.5 μ m～380nm	可視光線
蛋白質	380nm～10nm	紫外線
細胞膜	10nm	エックス線
DNA・RNA	～1nm	
原子(1 Å 程度) (1 Å=100pm)	1nm～100pm 100pm～10pm	
	10pm～10fm	ガンマ線
原子核	10fm～1fm	



組織が温まる

蛋白質の形を変える
→網膜のロドプシン
→メラニン色素

DNA2重螺旋
が切断される



エックス線の定義および性質

教科書p.8

- 電磁波の一種で電離作用を有する。
- 波長： λ は紫外線よりも短い(約10nm以下)
 - 波長が短いので高いエネルギーを持つ。
 - 物理的性質は核内から放出される γ 線と同じ。
- 真空中を光速で伝播する。 $(3.0 \times 10^8 \text{m/sec})$

エックス線の性質および作用 (p.8)

(試験問題必須)

基本的性質

- 電離・励起する。
- 直進性について電場・磁場の影響を受けない。
- 真空中を光速で進む。

基本的性質(特に「電離」)から説明可能

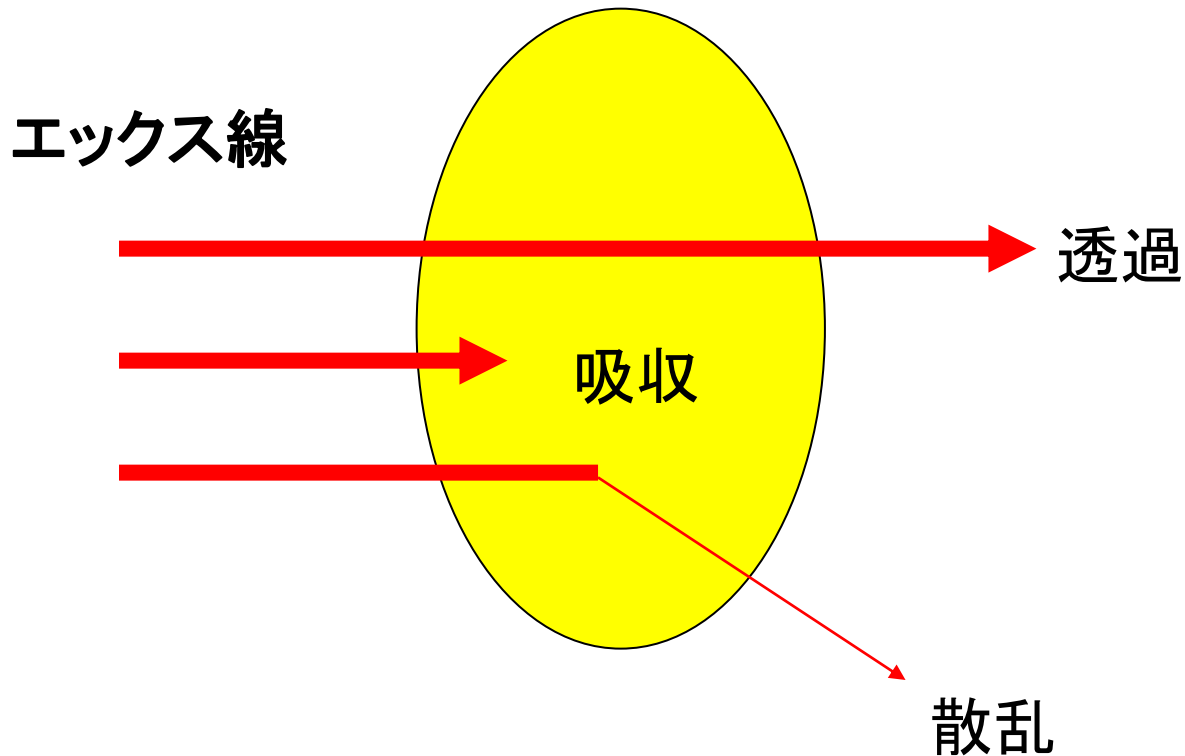
- 化学作用、写真作用(フィルムの感光作用)がある。
- 蛍光作用がある
- 生物学的作用がある。
- 熱作用がある。
- 着色作用がある。

物質との相互作用

- 物質を透過する。
- 物質と相互作用し吸収・散乱が生じる。

物質との相互作用 (p.18)

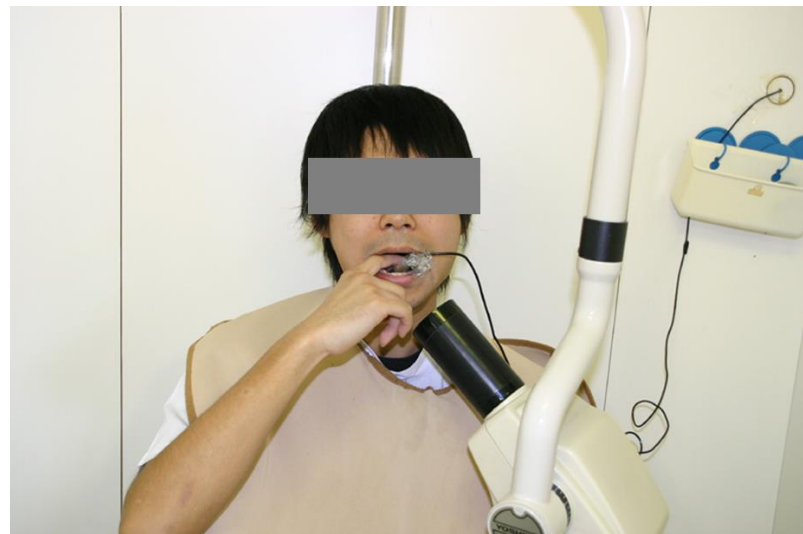
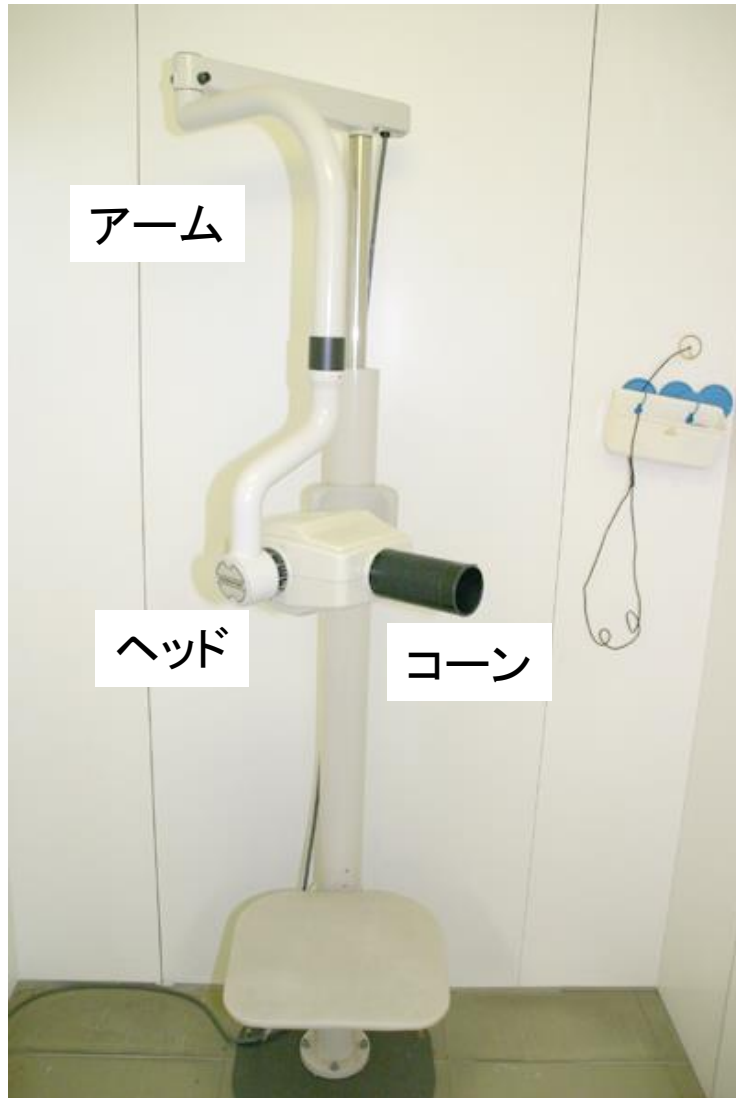
重要



吸収および散乱にて「減弱」する

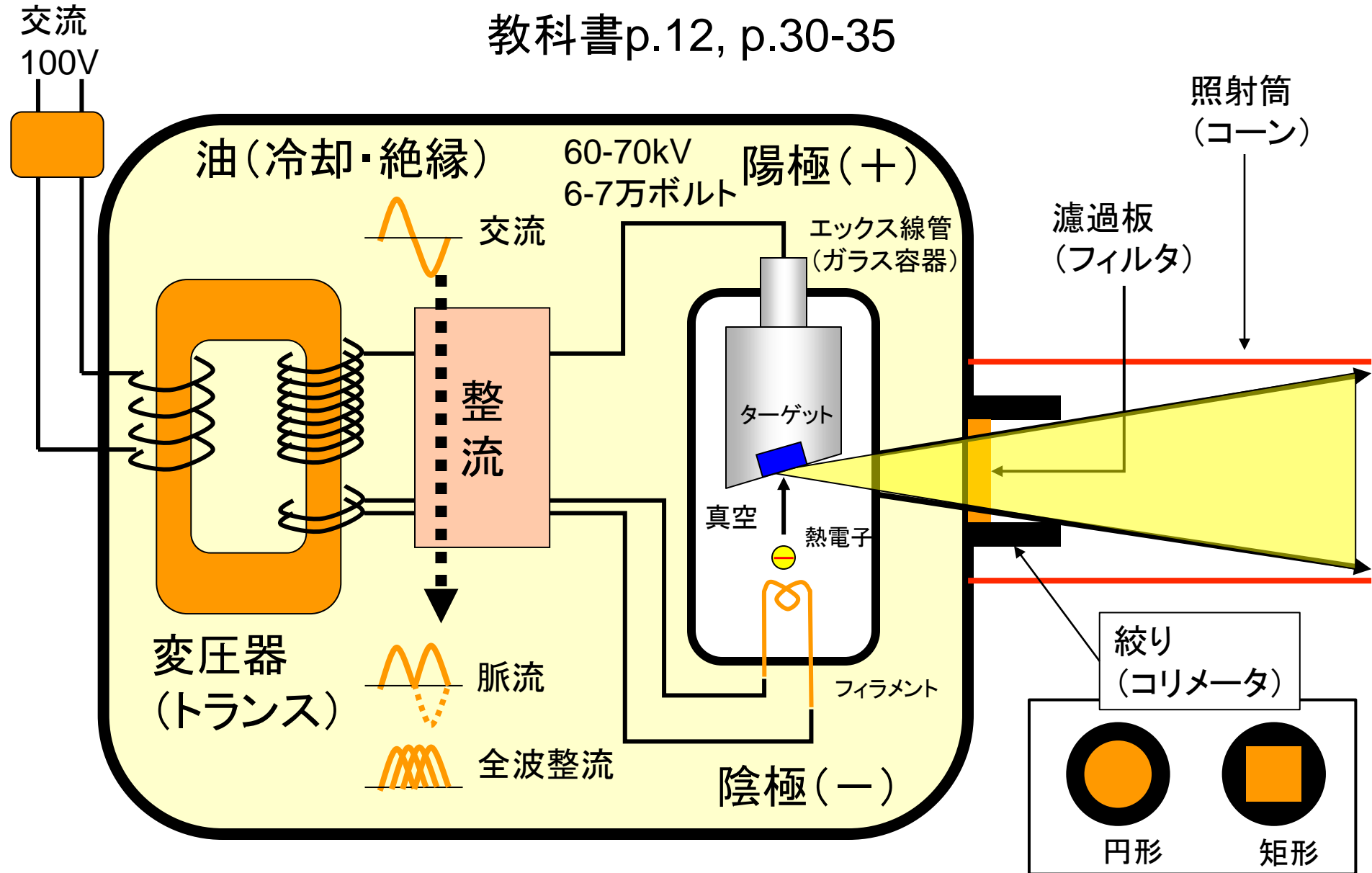
口内法エックス線撮影装置

教科書p.30-31



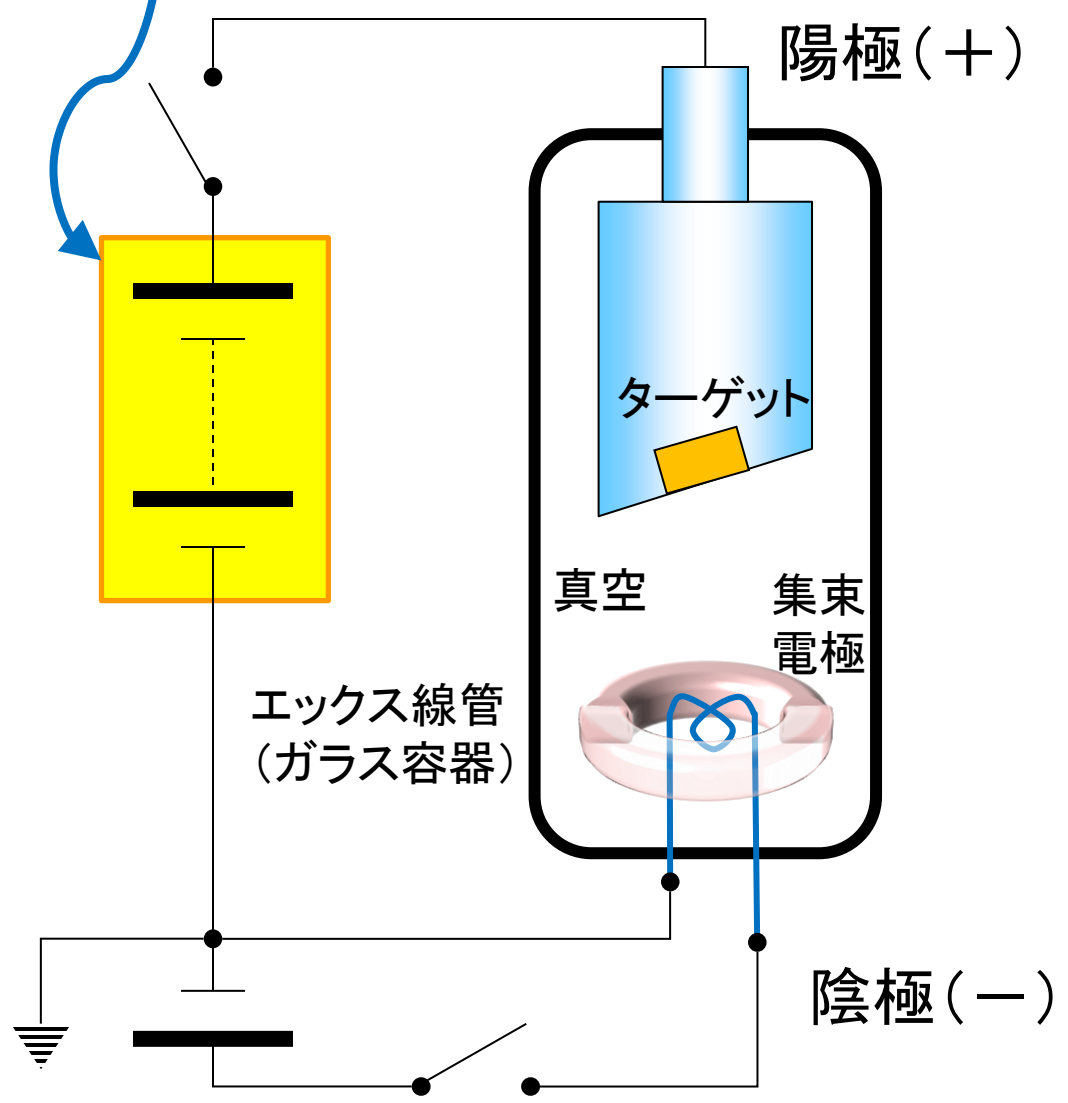
エックス線の発生

教科書p.12, p.30-35



直流電源相当
60-70kV
6-7万ボルト

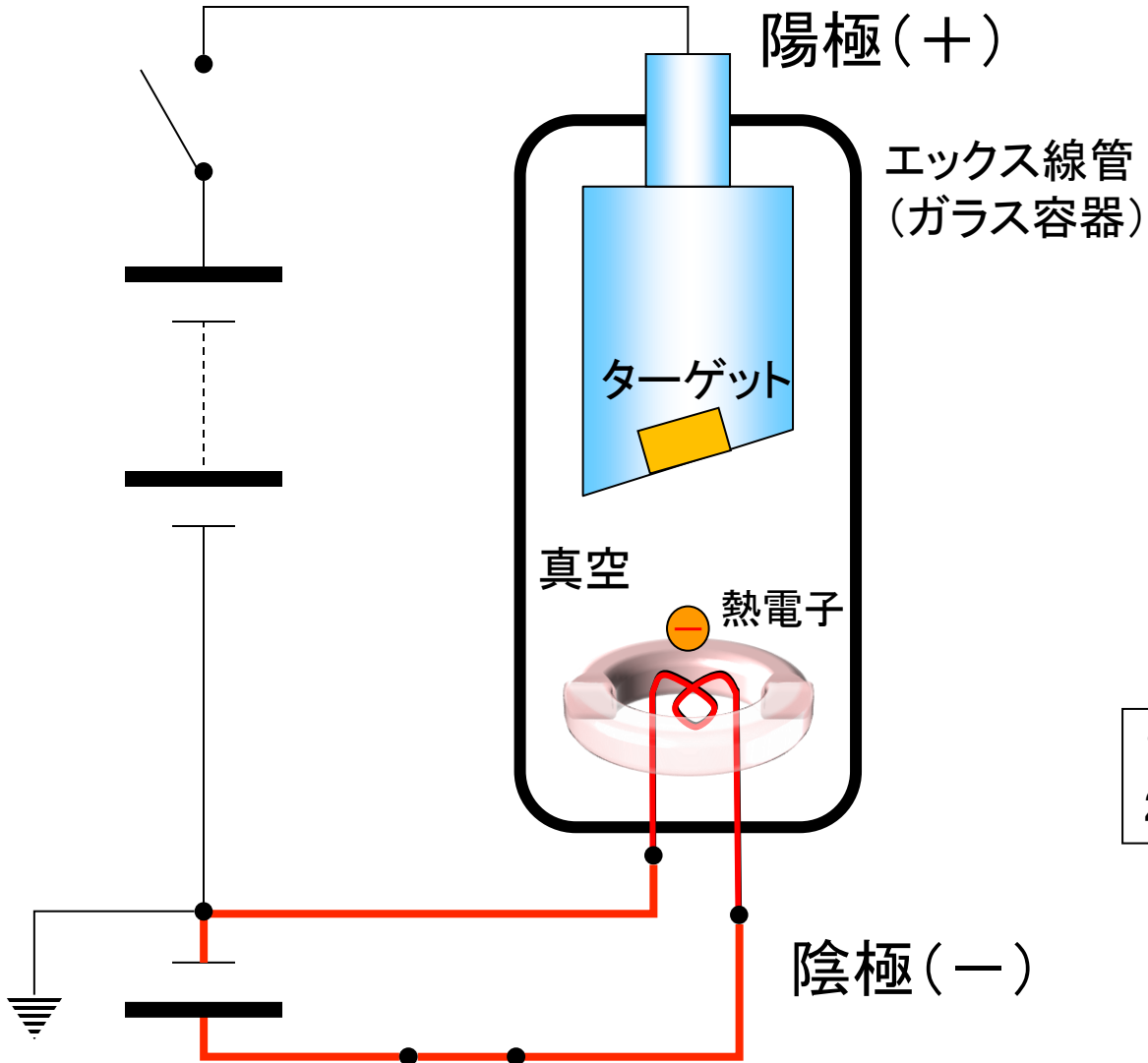
エックス線の発生



写真は明海大学所蔵のエックス線管

エックス線の発生

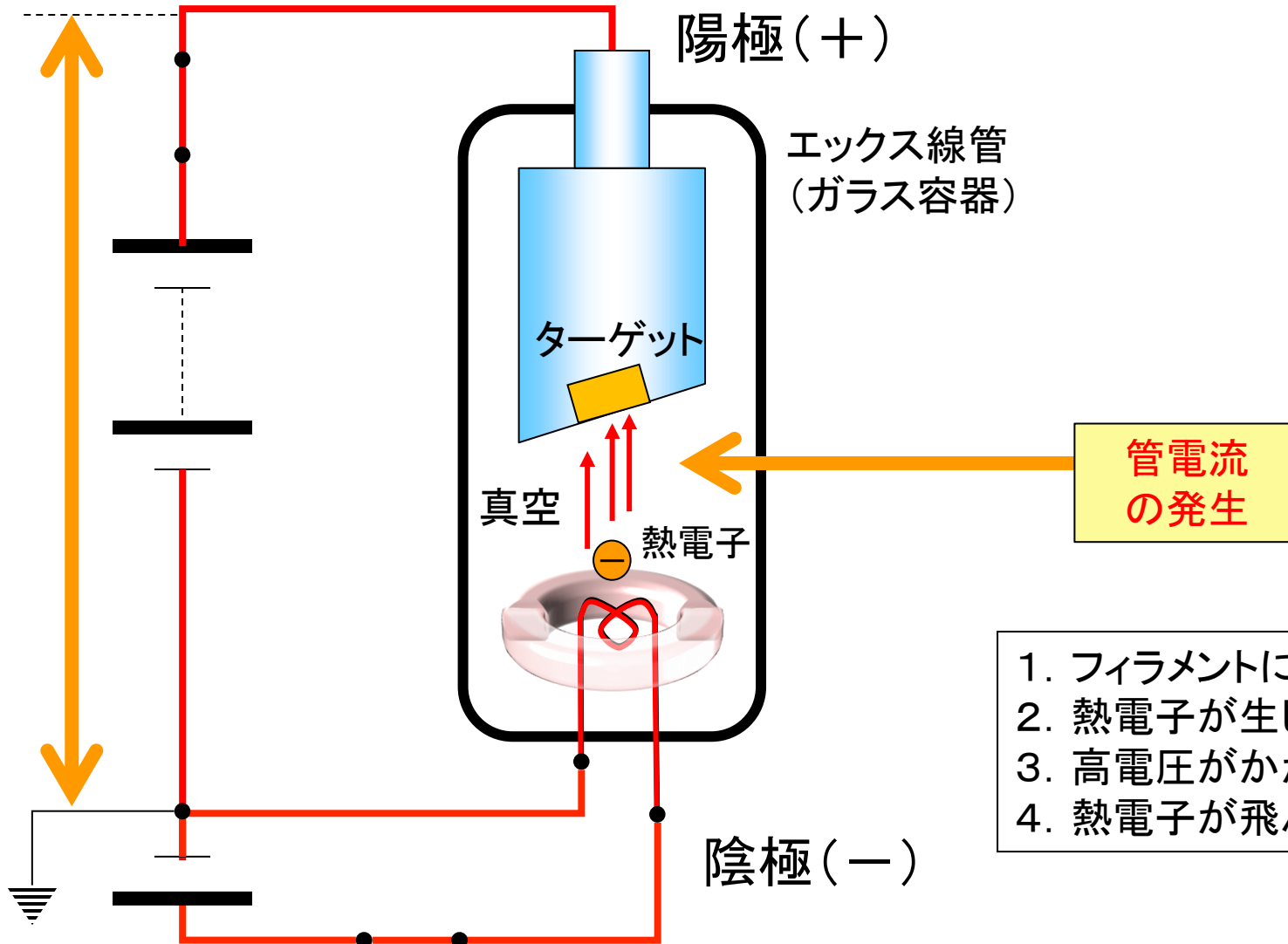
※先点火方式の図です。
同時点火方式もあります。



1. フィラメントに電流が流れる。
2. 熱電子が生じる。

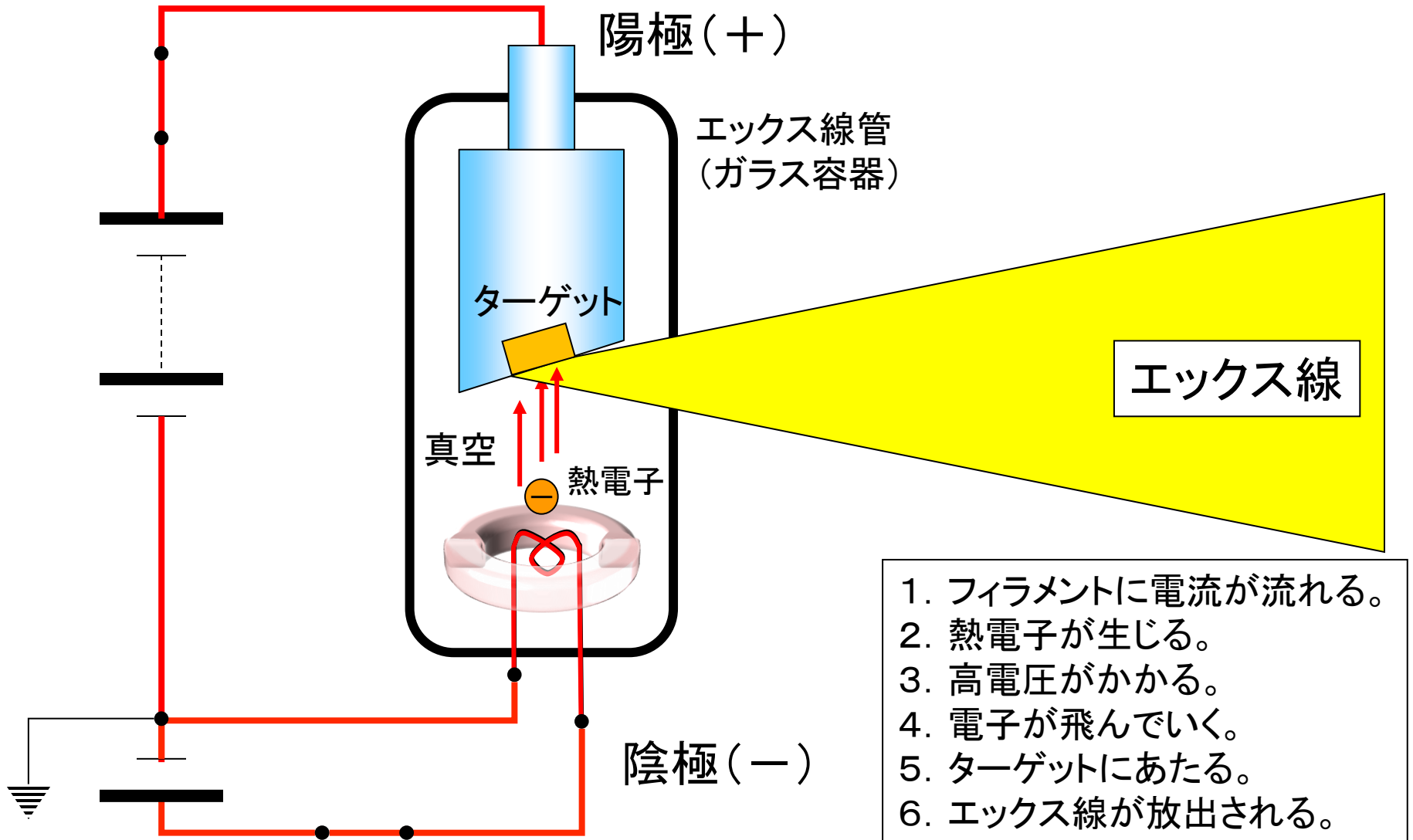
エックス線の発生

管電圧
60-70kV
6-7万ボルト



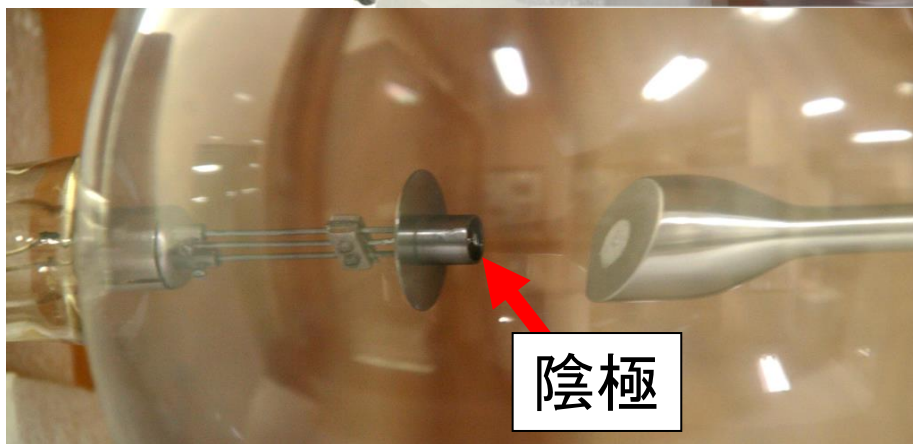
1. フィラメントに電流が流れる。
2. 熱電子が生じる。
3. 高電圧がかかる。
4. 熱電子が飛んでいく。

エックス線の発生



エックス線管（クーリッジ管）

新潟大学旭町学術資料展示館（あさひまち展示館）



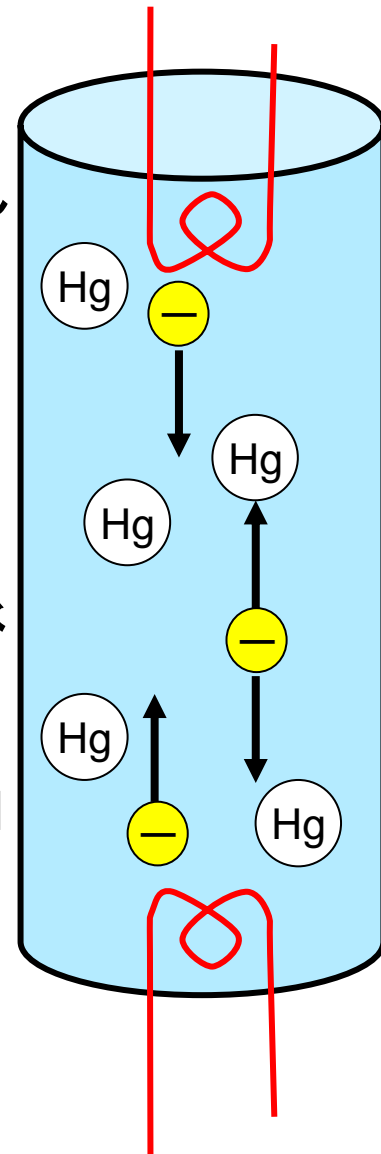
クーリッジ管 (Coolidge tube)

熱陰極X線管。高圧の2極真空管の1種。タングステン線を用いた熱陰極からの電子線を利用したX線管。陽極の電圧を変えるとX線の硬さが変わり、電流を変えるとX線の強さが変わる。William Coolidge による発明(1913)。

旧制新潟 物理

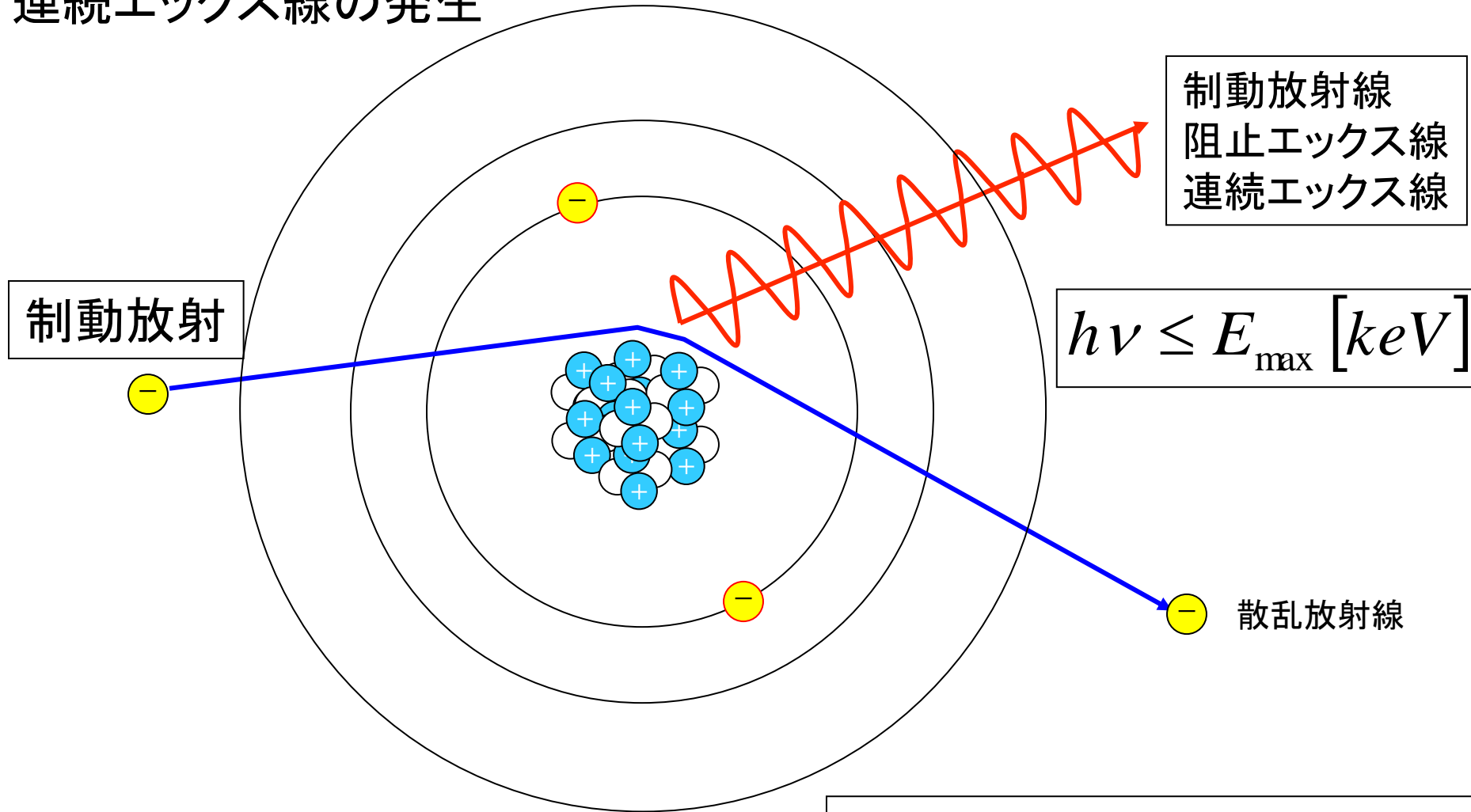
参考・蛍光灯(p.17)

- 内部は真空に近く、ガス状態の水銀が含まれている。
- 両端にあるフィラメントに電流が流れる。
- 両端のフィラメント間に高電圧がかけられる。
- 電子が飛び、水銀原子にぶつかって、紫外線が発生する。
- 紫外線が、ガラス管に塗られた蛍光物質に当たって、発光する。



電子と原子の相互作用

連続エックス線の発生

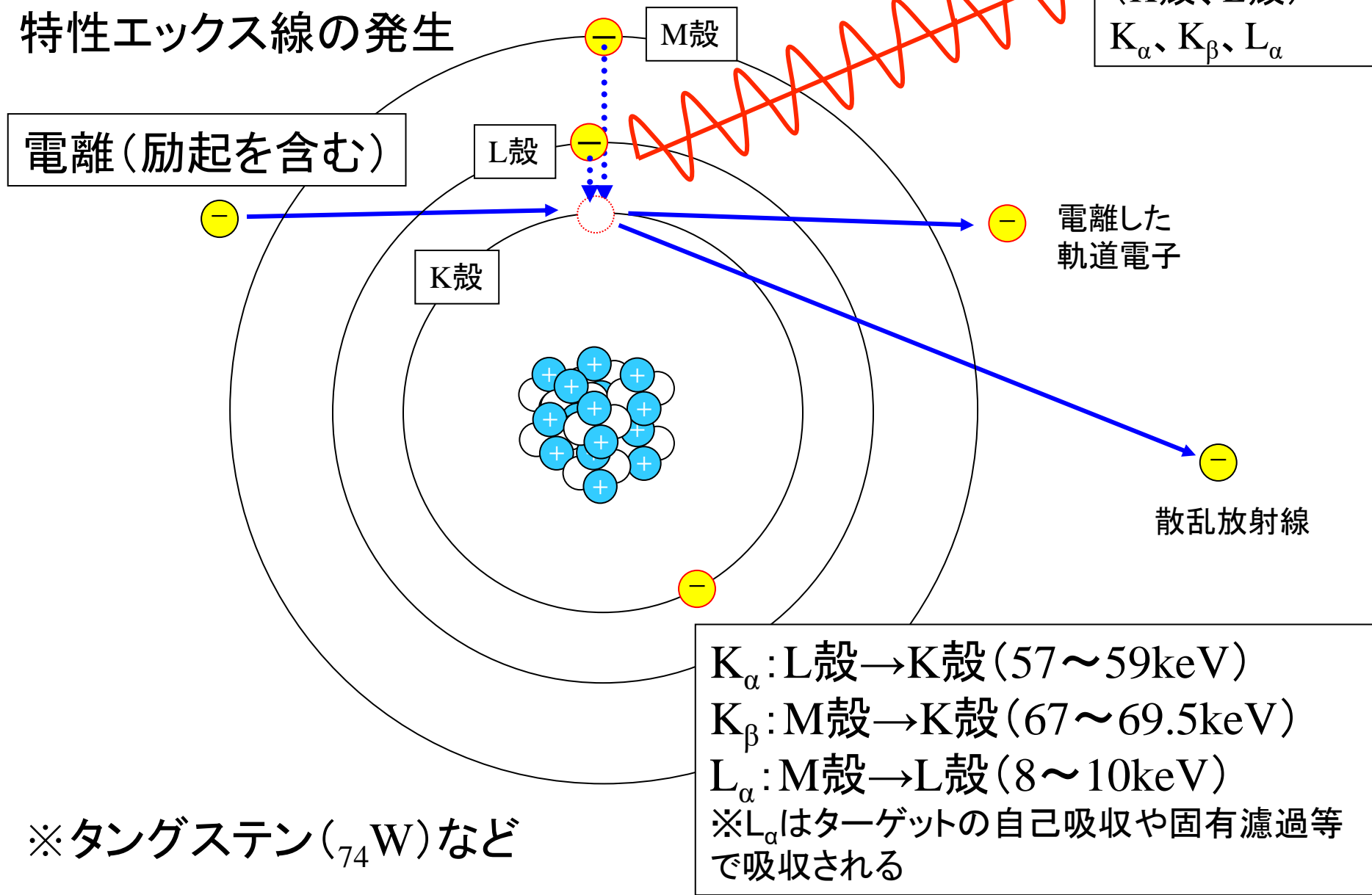


※タングステン($_{74}\text{W}$)など

電子の運動エネルギーが全て電磁波になったときが最大

電子と原子の相互作用

特性エックス線の発生



※タングステン($_{74}\text{W}$)など

エックス線の減弱

- 逆自乗の法則による減弱
 - 教科書p.20
 - 倍離れると、単位面積あたりのエックス線の量は $1/4 (=2^2の1)$ になる。
 - 3倍離れると、 $1/9 (=3^2の1)$ になる。
- 物質との相互作用による減弱
 - 教科書p.20-21
 - 原子番号、物質の密度、物質の厚さが大きいほど減弱する。

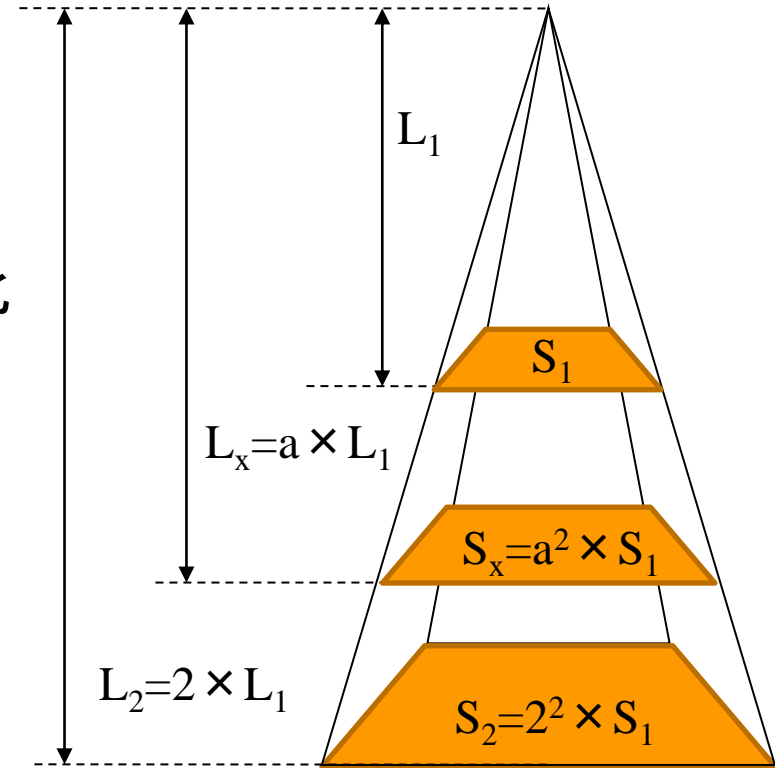
逆自乗の法則(教科書 p.20)

最初のエックス線強度: I_0

焦点から放出されるエックス線の単位面積当たりの強度は距離の自乗に反比例して減弱する

$I_0 \Rightarrow S_1$ 全体を照らす
単位面積当たりの強度: $I_1 = I_0/S_1$

$I_0 \Rightarrow S_2$ 全体を照らす
単位面積当たりの強度: $I_2 = I_0/S_2$
 $= I_0/(2^2 \times S_1) = I_1/4$

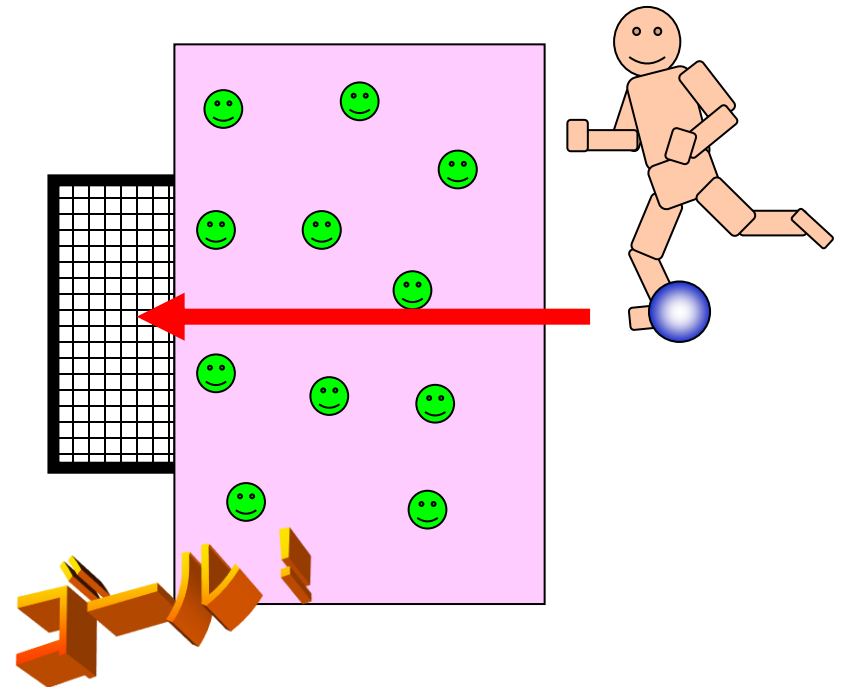


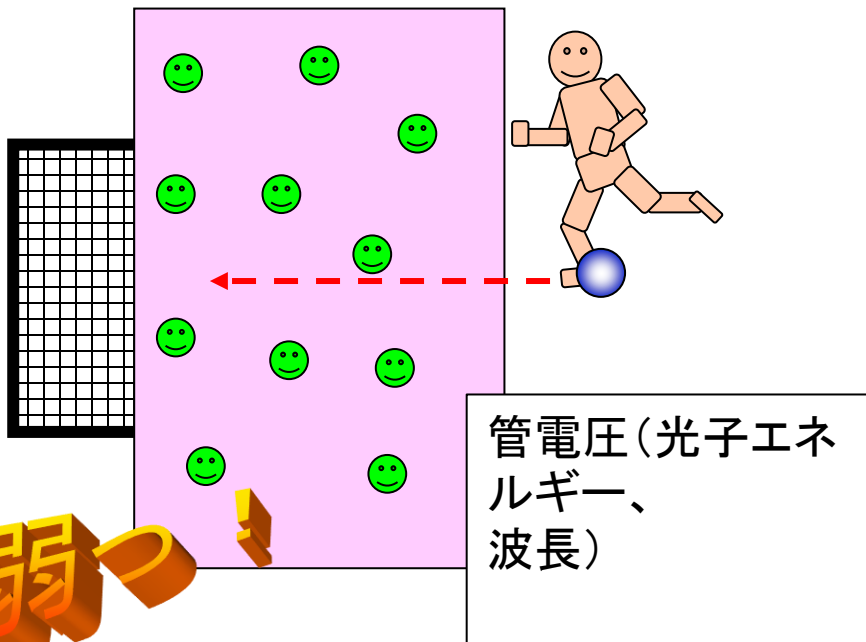
物質との相互作用による減弱

- 管電圧 (光子エネルギー、波長)
- 実効原子番号 (電子密度)
- 物質の密度
- 物質の厚さ

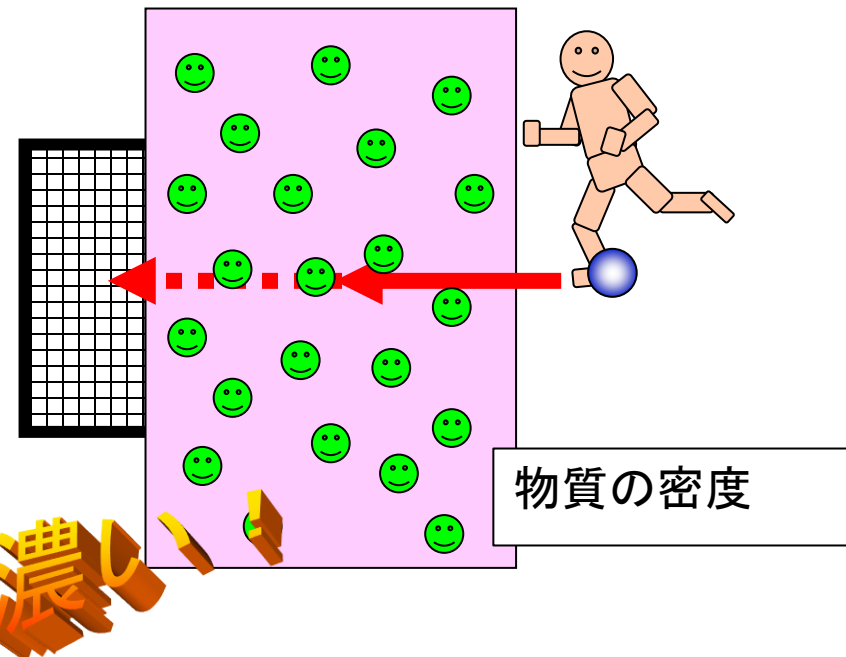
$$I = I_0 \exp(-\mu d)$$
$$\mu \propto Z^n \lambda^n \rho$$
$$n \approx 3$$

光電効果が主体の式

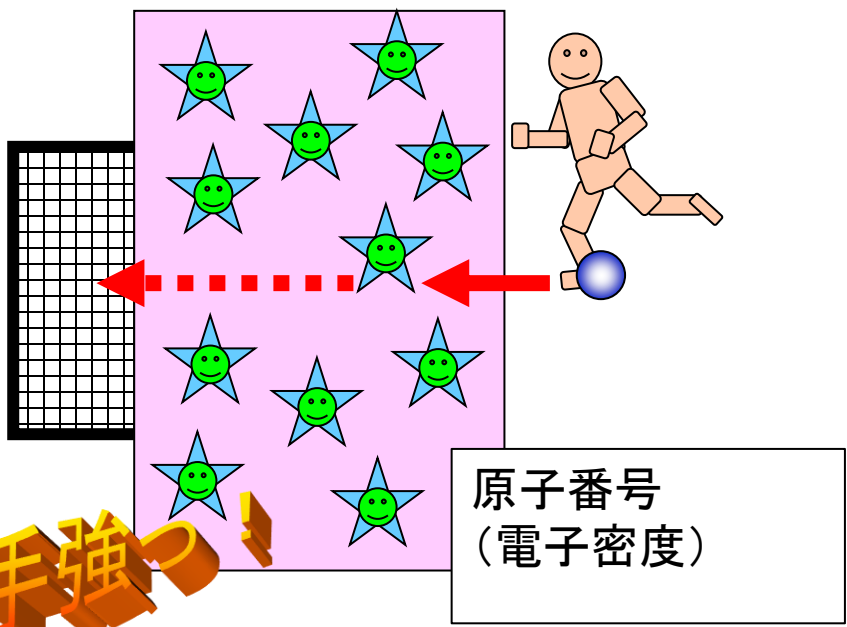




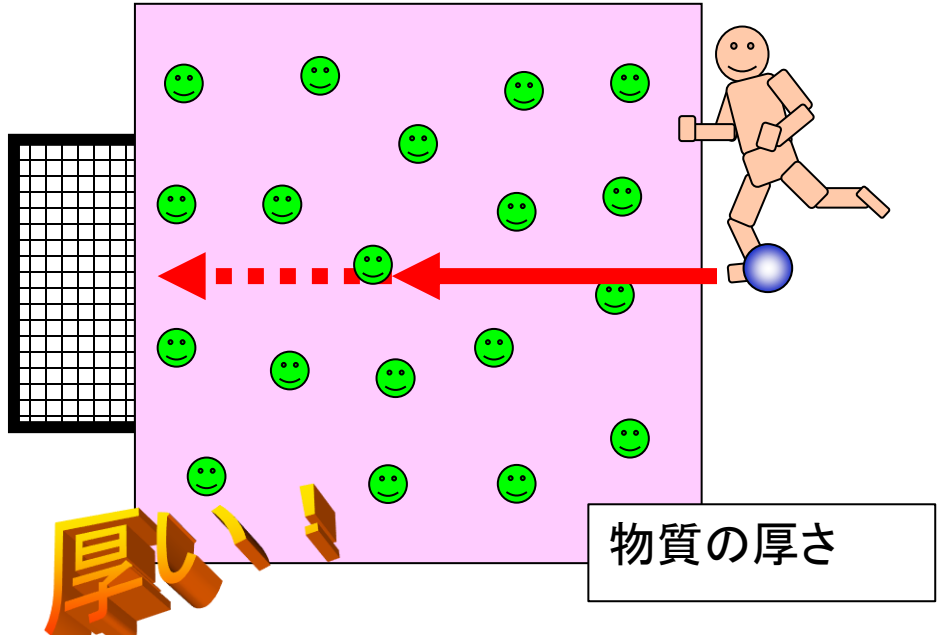
弱い



濃い



手強い



厚い

物質との相互作用による エックス線の減弱 (教科書 p.20-21)

- $I=I_0e^{-\mu d}$ 、 $\mu=kZ^3\lambda^3\rho$ (光電効果主体の場合の式)
 - I_0 : 入射エックス線強度、 I : 透過エックス線強度
 - d : 厚さ、 μ : 線減弱係数、 Z : 原子番号、 λ : 波長、 ρ : 密度
 - μ/ρ : 質量減弱係数
- 減弱が大きくなるのは、物質が【**厚い**】、原子番号が【**大きい**】、密度が【**高い**】、波長が【**長い**】場合。
- シュートしたときゴールする可能性が高いのは？
 - ゴールまでの距離が短い (厚さに相当)
 - 相手選手の守備範囲 (原子番号に相当)
 - 相手選手の数 (密度に相当)
 - ボールを蹴る強さ (光子エネルギー: 波長の逆数に相当)

撮影用器材（撮影装置以外）

教科書p.36-45

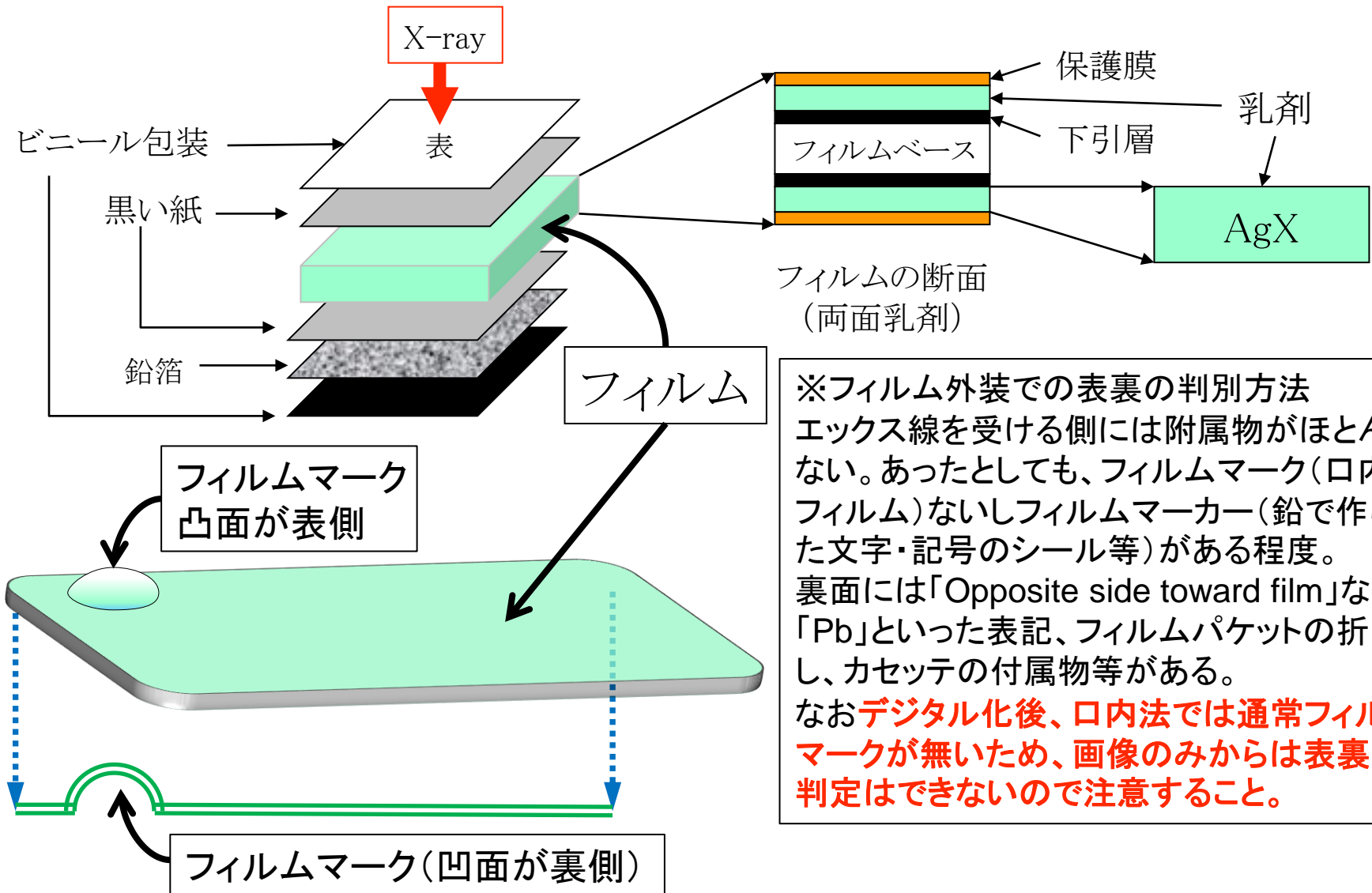
- フィルム
 - 口内法用（ノン・スクリーン・タイプ）
 - 標準サイズ、小児サイズ、咬合サイズなど
 - 口外法用（スクリーン・タイプ）
 - 六つ切、四つ切、大角、半切など
- 口外法用
 - カセット（p.42）
 - 増感紙（p.42-43）
 - フィルムマーカー（p.45）
 - グリッド（p.44）

フィルム感度について(p.38)

スピード	フィルム感度	撮影時間	被曝量	粒状性
C	低い	1	高い	細かい
D		1/2		
E		1/4		
F	高い	1/8	低い	荒い

口内法フィルムの構造について

p.36-39

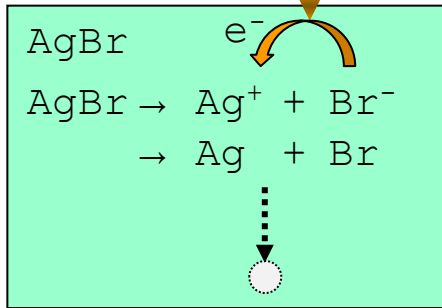


※フィルム外装での表裏の判別方法
エックス線を受ける側には附属物がほとんどない。あったとしても、フィルムマーク(口内法フィルム)ないしフィルムマーカ(鉛で作られた文字・記号のシール等)がある程度。
裏面には「Opposite side toward film」ないし「Pb」といった表記、フィルムパケットの折り返し、カセットの付属物等がある。
なおデジタル化後、口内法では通常フィルムマークが無いいため、画像のみからは表裏の判定はできないので注意すること。

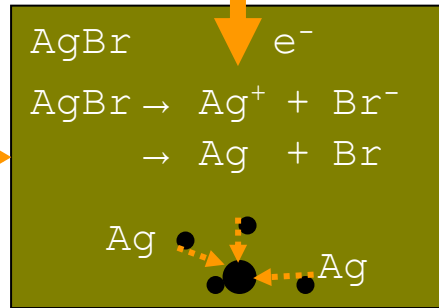
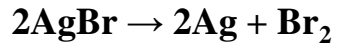
フィルムの現像 (教科書 p37、p.128)

X-ray

還元剤



露光による潜像の形成



現像 (アルカリ性)

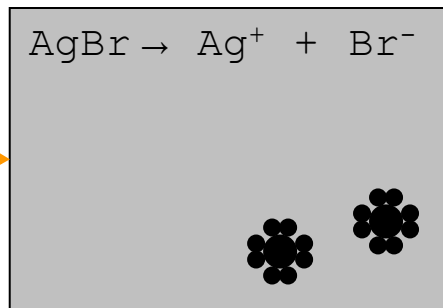
アルカリ性 (メーブル、ハイドロキノン)
ハロゲン化銀を還元し、エックス線があ
たったところを中心に銀を析出させる。



(中間水洗・停止)

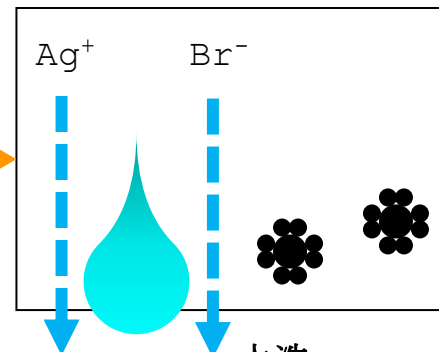
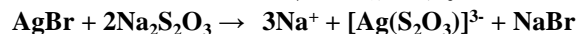
現像のアルカリで、定着の酸が中和され
るのを防ぎ、定着の力が弱まるのを防ぐ。

※ハロゲン化銀として臭化銀 (AgBr) の場合の
反応式。その他、塩化銀 (AgCl) 等がある。



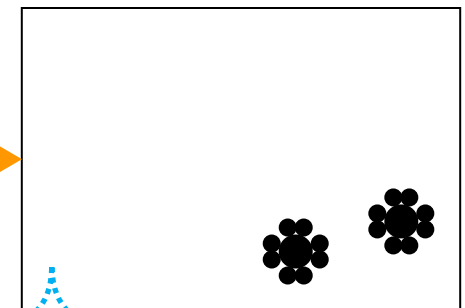
定着 (酸性)

酸性 (チオ硫酸ナトリウム)
残ったハロゲン化銀を溶かす。



水洗

溶けたハロゲン化銀と、
定着液を洗い流す。



乾燥

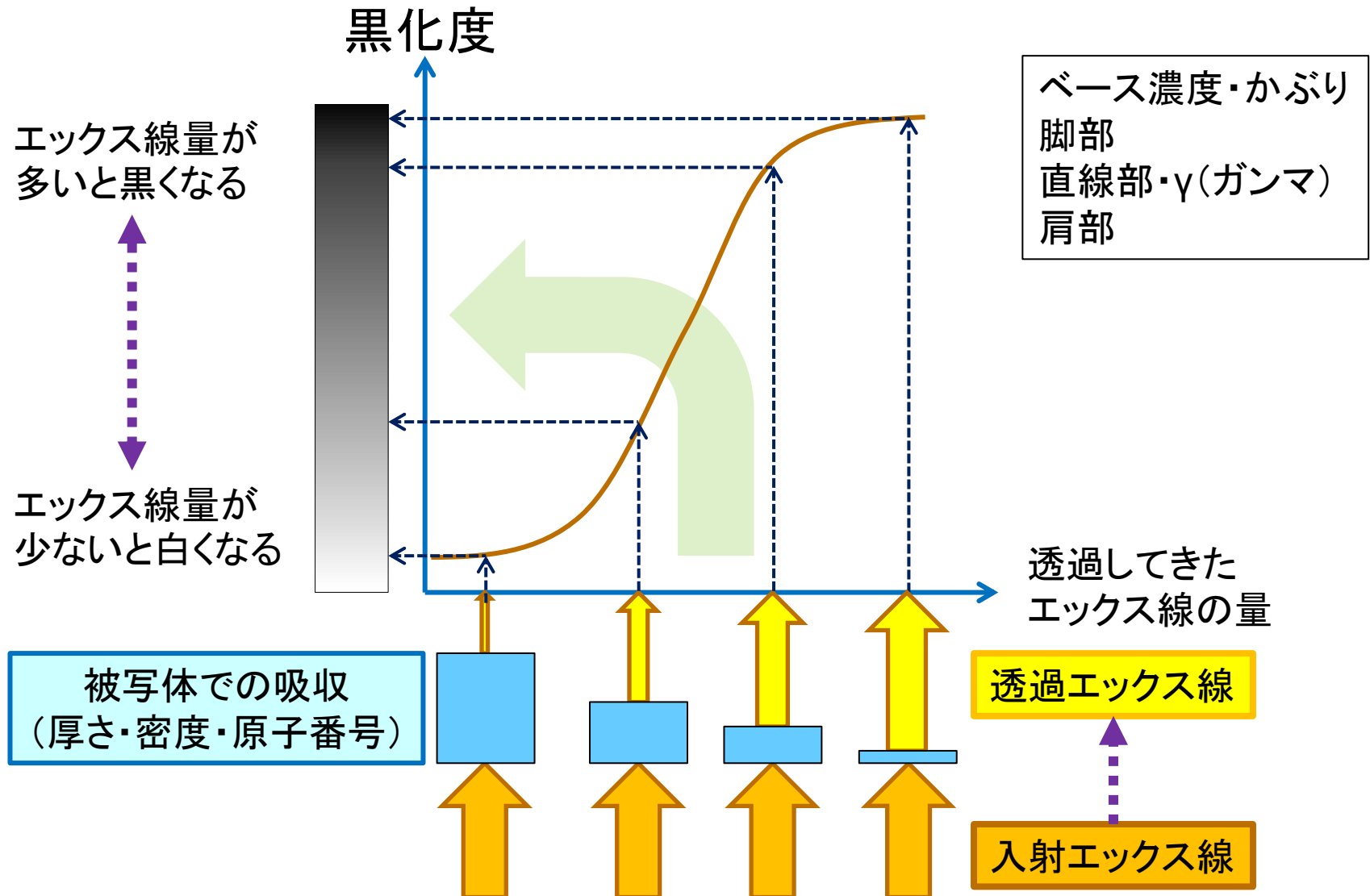
ゼラチン膜の水分を飛ばし、
傷が付きにくくする。

現像と失敗の原因 p.128-137

処理	内容		タンク現像	自動現像機	インスタント現像			
	成分				二浴法 (New ID処理)		一浴法 (QDE処理)	
現像	アルカリ性の液で、エックス線があたった(感光した)所のハロゲン化銀を還元し、銀粒子を析出させる。	時間	4分	2分	第1液	1分以上	QDE液	30秒以上
		温度	20℃	24℃		20℃		25℃
	メーブル、ハイドロキノン	時間-温度特性(指定現像条件)						
中間水洗	現像のアルカリで、定着の酸が中和されるのを防ぐ。	時間	数秒		第2液	45秒以上		
定着	酸性の液で、未還元ハロゲン化銀を溶かす。	時間	5から10分	約2分	第2液	45秒以上		
		温度	20-30℃					
	チオ硫酸ナトリウム							
水洗	溶けたハロゲン化銀を洗い流す。	時間	20-30分	約2分	後処理	30秒以上		
		温度			水洗	流水で30分		
乾燥	ゼラチン膜の水分を蒸発させ、傷がつきにくくする。		自然乾燥、乾燥機	機械内の温風	乾燥	風通しのよい日陰で		

画像の濃淡・黒化度と特性曲線

教科書 p.46-48



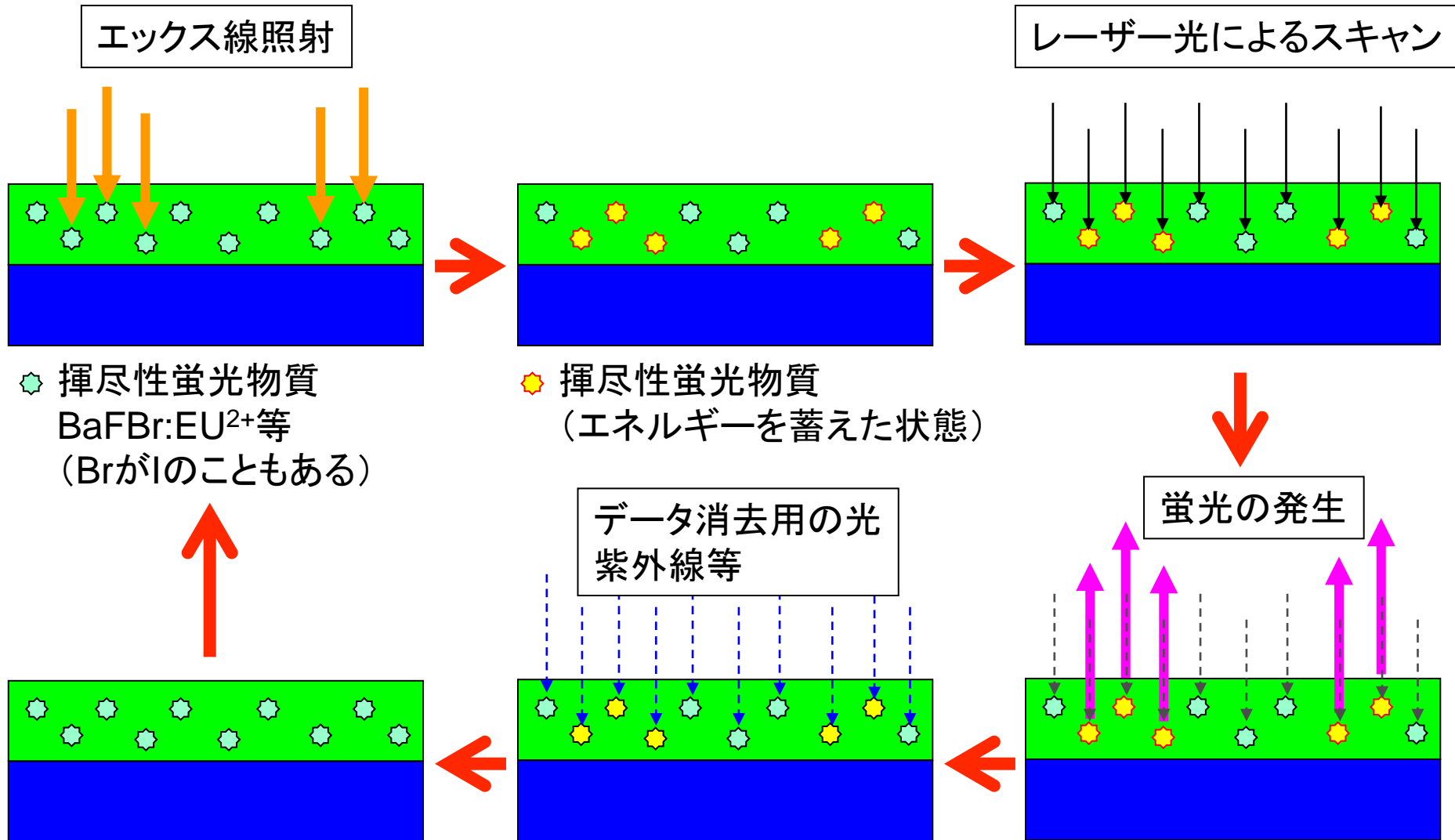
デジタル系 (p.138-143)

(フィルムレス、現像不要)

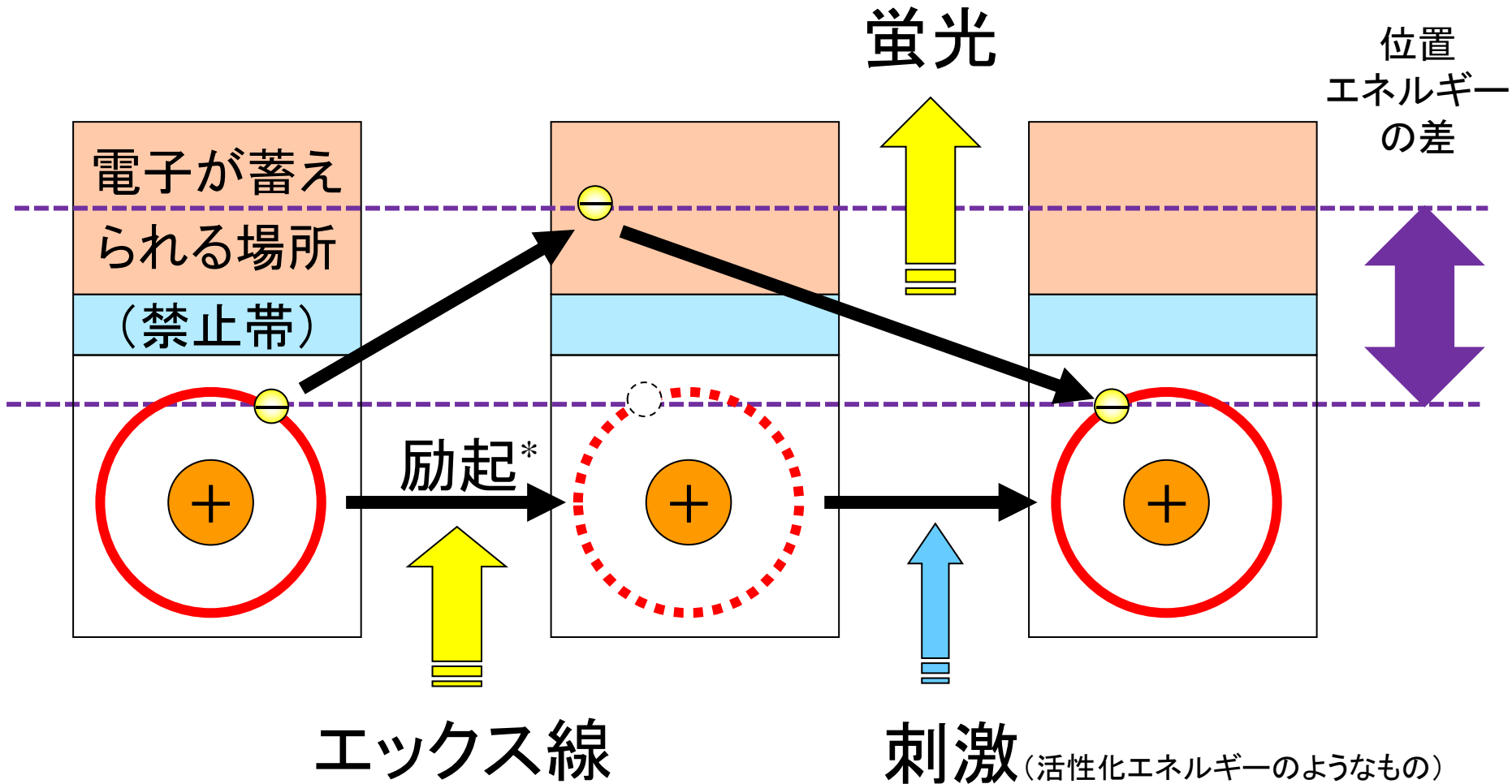
- DR (digital radiography)
 - IP (Imaging plate)を用いるもの
 - フィルムとほぼ同じ大きさ、厚さ。
 - フィルムと比べて硬い。
 - 破損すると、毒物がでてくる。
 - CCD (charged coupling device)を用いるもの
 - デジタルカメラやデジタルビデオでも使われている。
 - ケーブルがついている。
 - フィルムよりも厚い。
- デジタルなので、画像の保管・管理には注意が必要
 - ネットワーク接続されていると情報漏洩、データ破壊の危険性がある。

IPの仕組み p.142-143

Photostimulated Luminescence (PSL)



TLD、OSL、PSL原理の簡易図



*「励起」: 電離レベルだが、飛び出した電子を捕獲する部分があるため、「励起」と表現される。

TLD: 熱
OSL/PSL: 長波長の光 (緑)
IPでは「レーザー光」を利用

デジタル特有の画質の劣化がある

- ピクセルサイズ(画素数)によるもの
- ビット数(階調)によるもの, p.143
- 画像処理によるもの
 - エッジ強調(輪郭強調)処理など, p.140
 - 非可逆圧縮(jpeg画像変換など), p.139
- その他 (情報量の欠落)
 - 動画の場合の例: 1セグ画像はフルセグ画像に比べて画質が劣る。